

For Discussion Purpose Only

地域幸福度（ウェルビーイング）指標の 実践のためのOASIS研修とアワードプログラム

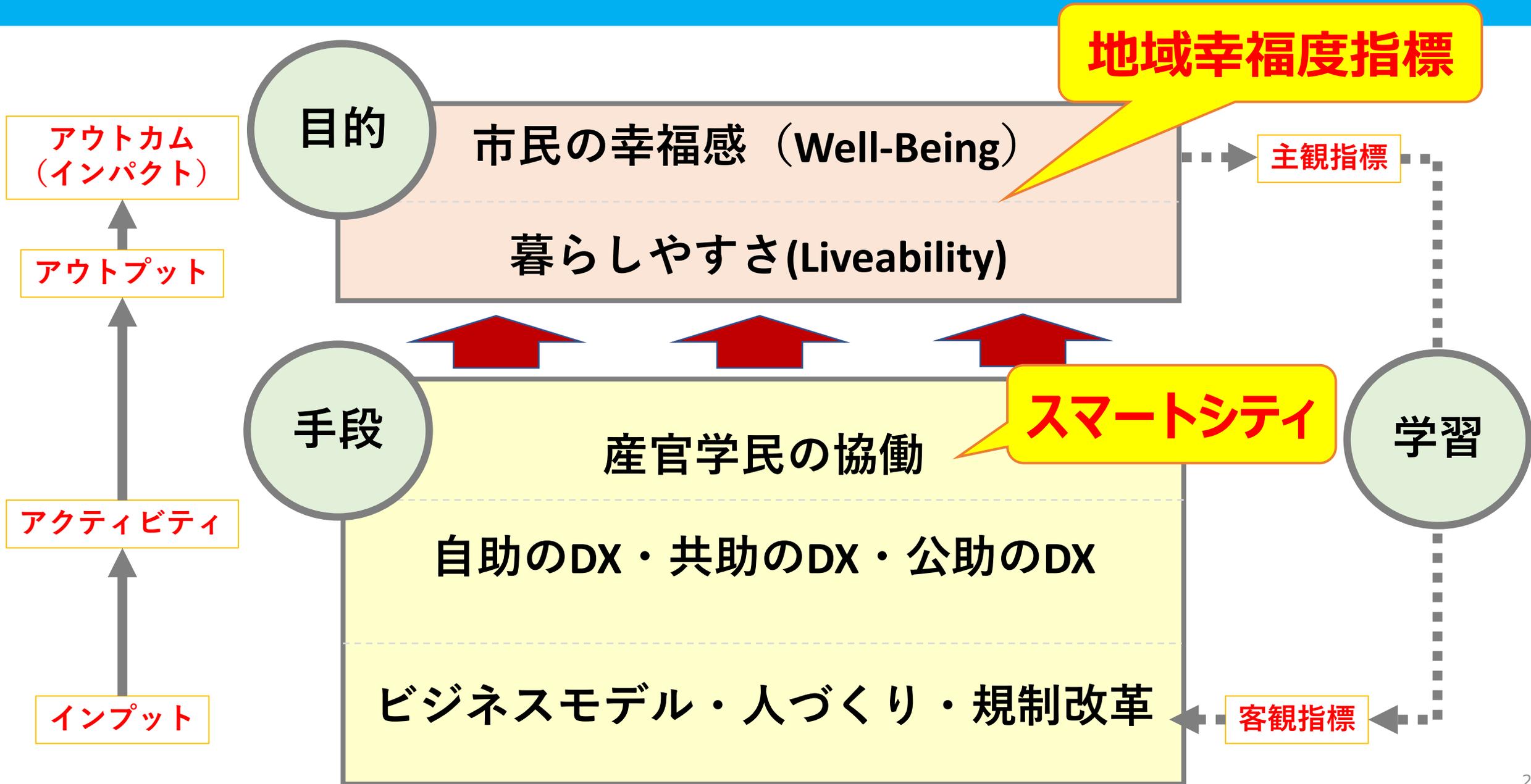
2023年12月13日

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 専務理事 南雲岳彦



Smart City
Institute Japan

基本的な考え方 ～ 地域幸福度指標の政策活用を意図したロジックモデル



ロジックモデルに基づく地域幸福度指標モデルの全体構成図

総合的な政策
インパクトレイヤー

ウェルビーイング総合指標

主観

ウェルビー
イングの因子

【アンケート調査】

生活環境

地域の人間関係

自分らしい生き方

医療・福祉	住宅環境	遊び・娯楽	初等・中等教育	デジタル生活	都市景観	自然の恵み	自然災害	地域とのつながり	自己効力感	文化・芸術	雇用・所得
買物・飲食	移動・交通	子育て	地域行政	公共空間	自然景観	環境共生	事故・犯罪	多様性と寛容性	健康状態	教育機会の豊かさ	事業創造

地域幸福度
指標レイヤー

客観

暮らしやすさ
の因子

【オープンデータ】

生活環境

地域の人間関係

自分らしい生き方

医療・福祉	住宅環境	遊び・娯楽	初等・中等教育	デジタル生活	都市景観	自然の恵み	自然災害	地域とのつながり	自己効力感	文化・芸術	雇用・所得
買物・飲食	移動・交通	子育て	地域行政	公共空間	自然景観	環境共生	事故・犯罪	多様性と寛容性	健康状態	教育機会の豊かさ	事業創造

スマートシティ
政策レイヤー

先端的
サービス

行政
手続

物流

交通

観光

防災

社会
福祉

教育

金融

環境
保全

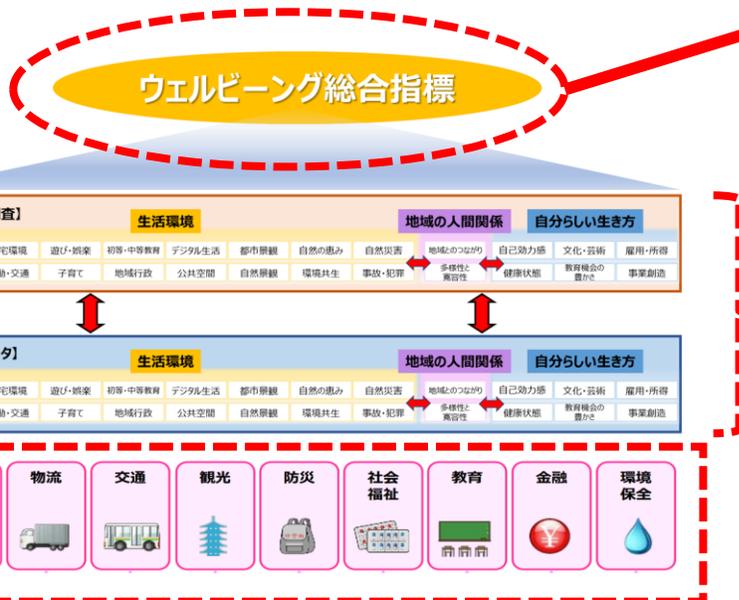


現在地 ~ 地域幸福度指標を全国展開中

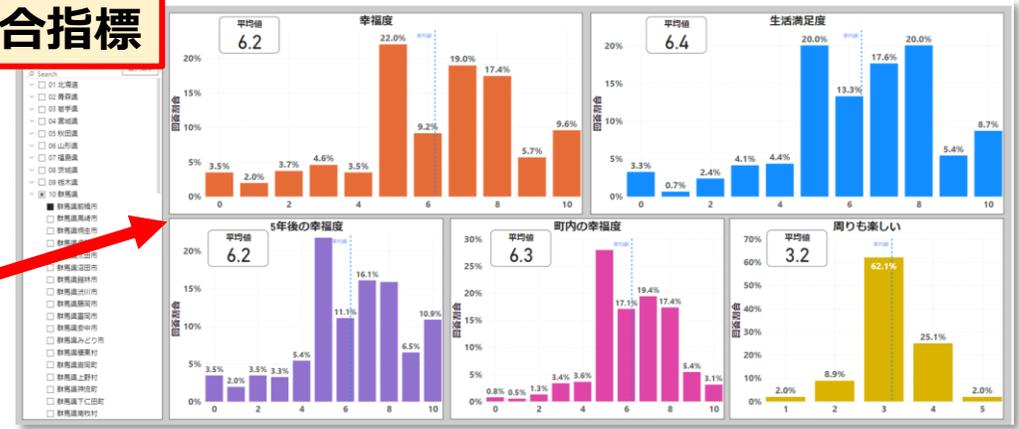
総合的な政策
インパクトレイヤー

地域幸福度
指標レイヤー

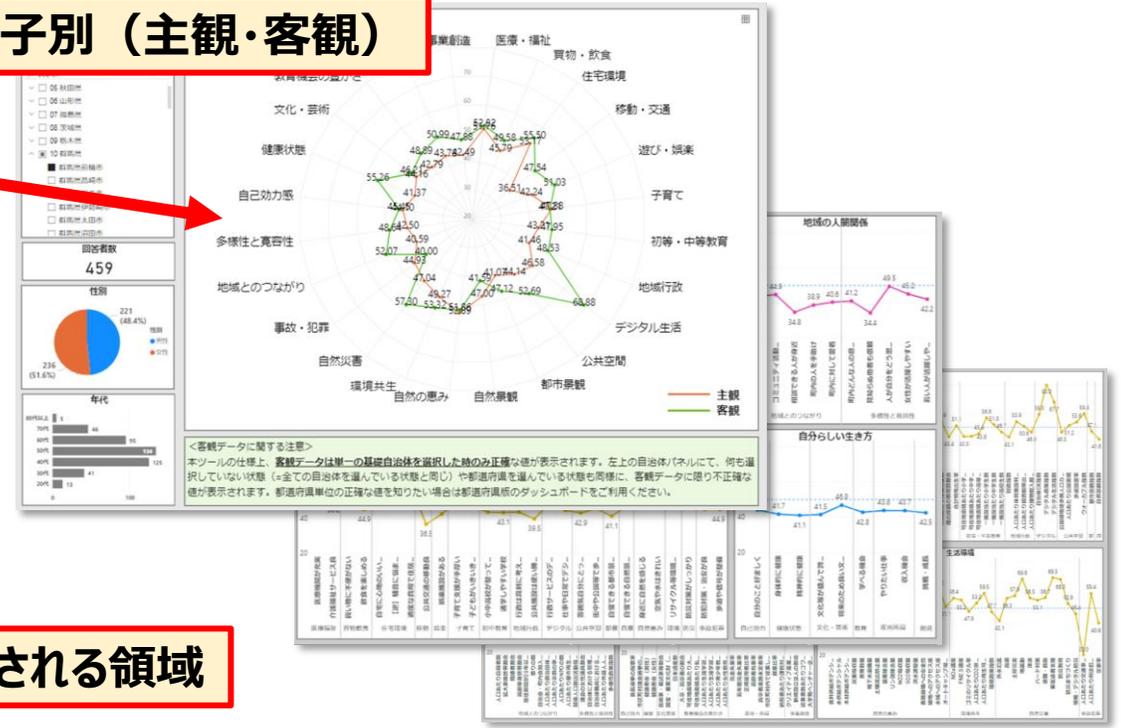
スマートシティ
政策レイヤー



総合指標



因子別 (主観・客観)



デジタル田園都市国家構想下の公共政策・事業戦略により推進される領域

どのようにして、自治体が地域幸福度 指標を活用するための能力を開発するか？

(例：総合計画策定への反映)

ウェルビーイング
概念の理解

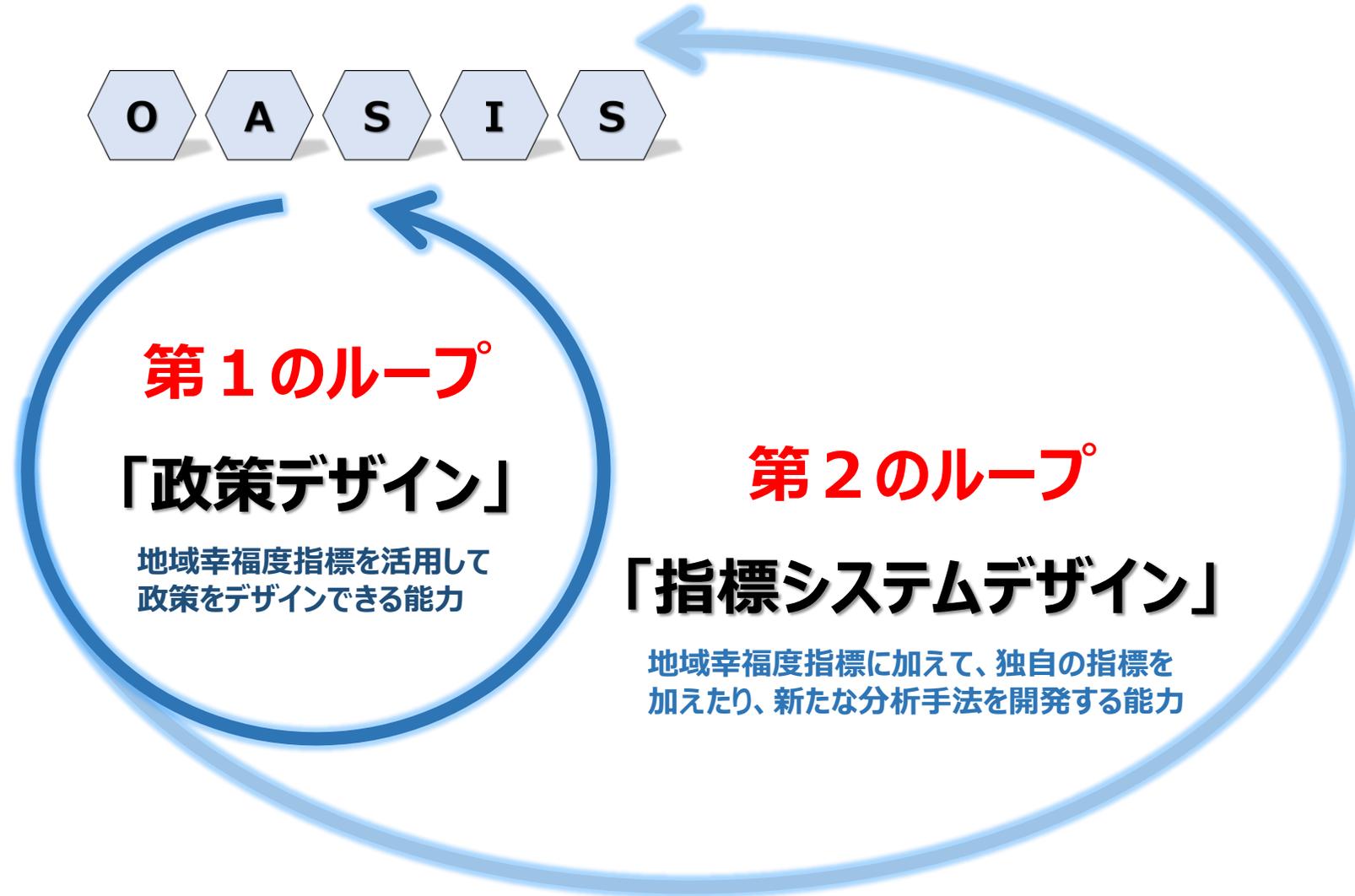
ウェルビーイング
指標の理解

ウェルビーイング
政策デザイン手法

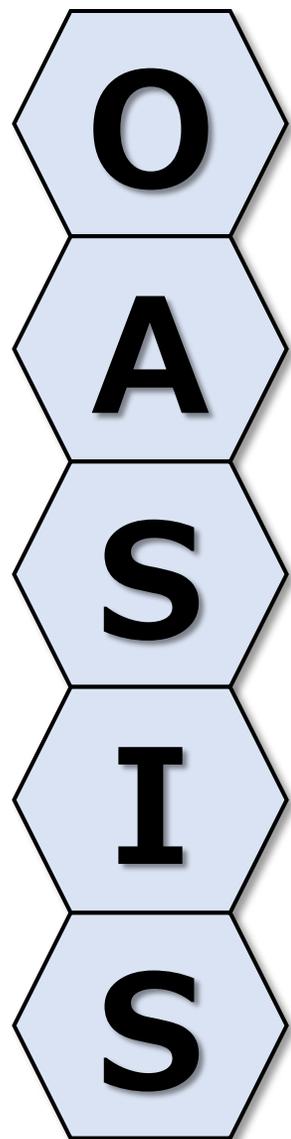
OASIS研修を通じて習得を目指す事項 ⇒ 「ローカル・チャンピオンの育成」

1. ウェルビーイングの概念を理解し、自分の言葉で人に説明できるようになる。
2. 日本や海外の代表的なウェルビーイング指標や分析手法に関する知識を獲得し、自らの自治体での導入に向けた基本的な意見やスタンスを持てるようになる。
3. 地域幸福度（ウェルビーイング）指標を活用し、地域の重要なウェルビーイング因子を見つけ出せるようになる。
4. ロジックツリーやロジックモデルを使い、幸福感や生活満足度を高めるための政策をデザインできるようになる。
5. 自分の自治体により適したウェルビーイング指標システムをデザインできるようになる。

自治体におけるウェルビーイング指標に基づく政策デザイン能力をダブルループで開発する



OASIS研修の基本設計（5つの標準ステップ）



Overview = 大きく目を開いて地域社会を俯瞰する

Analyze = データを分析してフォーカスを見つけ出す

Solve = ウェルビーイングを高める政策をデザインする

Impact = 工夫を重ねてソーシャルインパクトを導き出す

Share = 良い結果も悪い結果も、広く社会に共有する

OASIS研修（対象：部課長レベル） = 6回の講義 + 宿題（約6か月）

O

講義 1・2

- ・ ウェルビーイングとは
- ・ 各種分析手法
- ・ 内外の先進事例
- ・ 内閣府等の既存データの紹介
- ・ 日本人の幸福観と文化特性

- ・ **ディスカッション**

アサイメント1

- ・ **宿題①（幸福度指標システム）**
- ・ **宿題②（主観×客観分析）**

A

講義 3

- ・ 地域幸福度指標
- ・ 主観×客観マトリクス
- ・ 相関分析
- ・ 認知バイアス
- ・ 統合マップ作成
- ・ ロジックツリー作成

- ・ **ディスカッション**

アサイメント2

- ・ **宿題③（統合マップ）**
- ・ **宿題④（ロジックツリー）**

S

講義4

- ・ 将来シナリオ作成
- ・ バックカスティング
- ・ 政策ゴール設定
- ・ インパクトの考え方
- ・ ロジックモデル作成
- ・ ファイナンス（SIB）

- ・ **ディスカッション**

アサイメント3

- ・ **宿題⑤（バックカスティング）**
- ・ **宿題⑥（ロジックモデル）**

I

講義5

- ・ 全体統合（宿題①～⑥を統合し、最終発表資料を作成）

- ・ **ディスカッション**

アサイメント4

- ・ **宿題⑦（①～⑥の統合とブラッシュアップ）**

S

講義6

- ・ 首長あてプレゼン

1. ウェルビーイング分析結果
2. ウェルビーイング政策領域の選択
3. ペルソナ別の政策目標・内容
4. 市固有の追加アンケート・KPI、及び分析手法

アサイメント5

- ・ **宿題⑧（最終発表資料の提出）**

OASIS研修実績（2023年12/13現在 計略130人：各地10～20人）

【自治体】

- 会津若松市（済）
- 浜松市*（済）
- 渋谷区（済）
- 鎌倉市（進行中）
- 千葉市（進行中）
- 東広島市*（進行中）
- 加古川市*（進行中）
- 山口県（進行中）
- 前橋市*（進行中）
- 小田原市（予定）
- 三島市（予定）
- 下関市（予定）
- 世田谷区（予定）

【民間企業】

- 東京海上日動火災（進行中）
- TIS（進行中）
- 富士通（進行中）
- インテージ（進行中）
- NEC（予定）

（*2回転目の研修を実施予定）

【受講者の例： 浜松市】

企画課	課長
デジタル・スマートシティ推進課	課長
財政課	課長
市民協働・地域政策課	課長
高齢者福祉課	課長
次世代育成課	課長
スタートアップ推進課	課長
交通政策課	課長
カーボンニュートラル推進事業本部	副本部長
ウエルネス推進事業本部	副本部長
教育総務課	課長
デジタル・スマートシティ推進部	部長
デジタル・スマートシティ推進課	課長
デジタル・スマートシティ推進課	グループ長
企画課	担当課長
市民協働・地域政策課	グループ長
財政課	課長補佐
交通政策課	課長補佐

【受講者の例： 加古川市】

政策企画課	課長
市民活動推進課	課長
産業振興課	課長
環境政策課	課長
高齢者・地域福祉課	課長
市民健康課	課長
こども政策課	課長
都市計画課	課長
教育総務課	課長
学校教育課	課長

どの自治体でも、総合計画策定に携わる部課長クラスを主な対象者として選定。

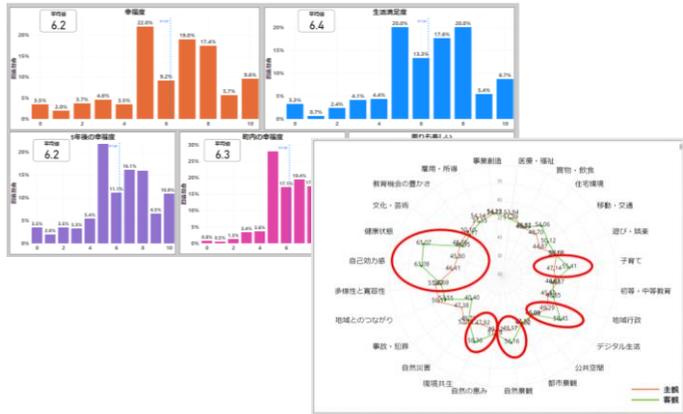
- ・パターン① 各部局メンバー
- ・パターン② 政策企画部署のみ

各地でのOASIS研修の様子 ～ 「ウェルビーイング」が**共通言語**になっていく



【第1のループ】 地域幸福度指標の分析から政策デザインへの過程

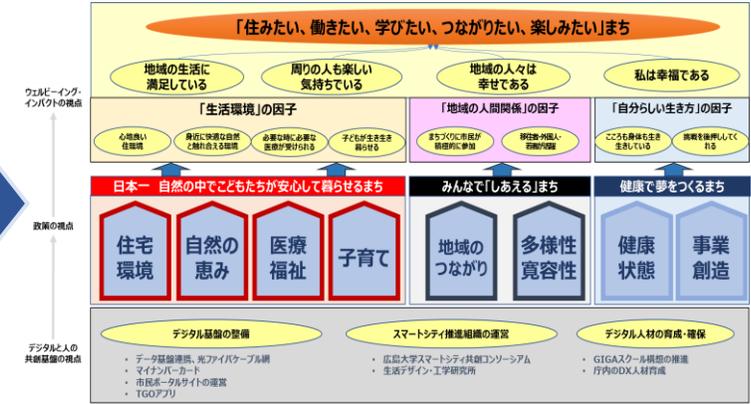
① 地域幸福度指標ダッシュボード



② 「主観 x 客観」+ 相関分析

	T (脅威)	O (機会)
S (強み)	(主観50以上、客観50未満を記載) ・ 自然災害 ・ 教育機会の豊かさ	(主観と客観の偏差値50以上を記載) ・ 医療・福祉 ・ 遊び・娯楽 ・ 地域との繋がり ・ 多様性・寛容性 ・ 雇用・所得 ・ 事業創造
W (弱み)	(主観と客観の偏差値50未満を記載) ・ 買物・飲食 ・ 初等・中等教育 ・ 地域行政 ・ 公共空間	(主観50未満、客観50以上を記載) ・ 住宅環境 ・ 移動交通 ・ 子育て ・ デジタル生活 ・ 自然景観 ・ 環境共生 ・ 自己効力感 ・ 健康状態

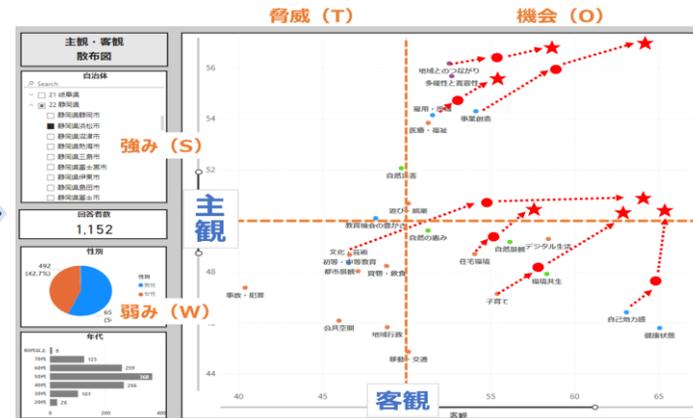
③ ウェルビーイング政策統合マップ



④ ペルソナ・ロジックツリー



⑤ 「主観 x 客観」シナリオ分析



⑥ 政策ロジックモデル



【第1のループ】 地域幸福度指標の分析から政策デザインへの過程

① 地域幸福度指標ダッシュボード



市民のウェルビーイングを俯瞰し、その特徴を知る



② 「主観 x 客観」+ 相関分析

	T (脅威)	O (機会)
S (主観)	(主観50以上、客観50未満を記載) ・ 自然災害 ・ 教育機会の不足	(主観と客観の偏差値50以上を記載) ・ 医療・福祉 ・ 遊び・娯楽
弱み (客観)	・ 買物・飲食 ・ 初等・中等教育 ・ 地域行政 ・ 公共空間	・ 住宅環境 ・ 移動交通 ・ 子育て ・ デジタル生活 ・ 自然景観
		・ 自然景観 ・ 環境共生 ・ 自己効力感 ・ 健康状態

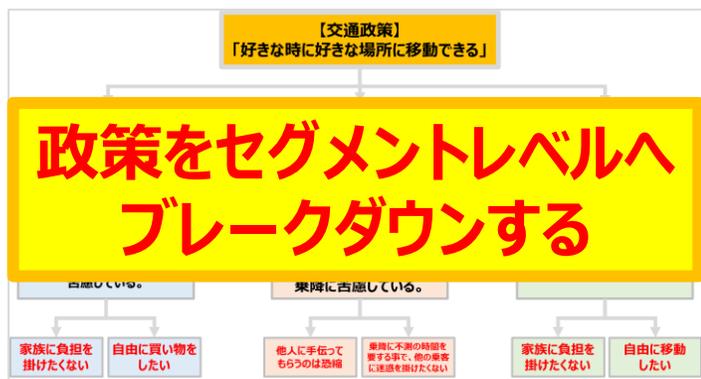
市民にとって重要なウェルビーイング因子を見つけ出す

③ ウェルビーイング政策統合マップ



公共政策として注力すべき領域を選択する

④ ペルソナ・ロジックツリー



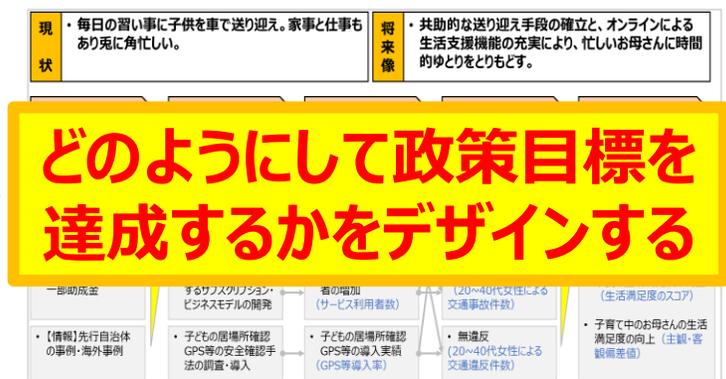
政策をセグメントレベルへブレイクダウンする

⑤ 「主観 x 客観」シナリオ分析



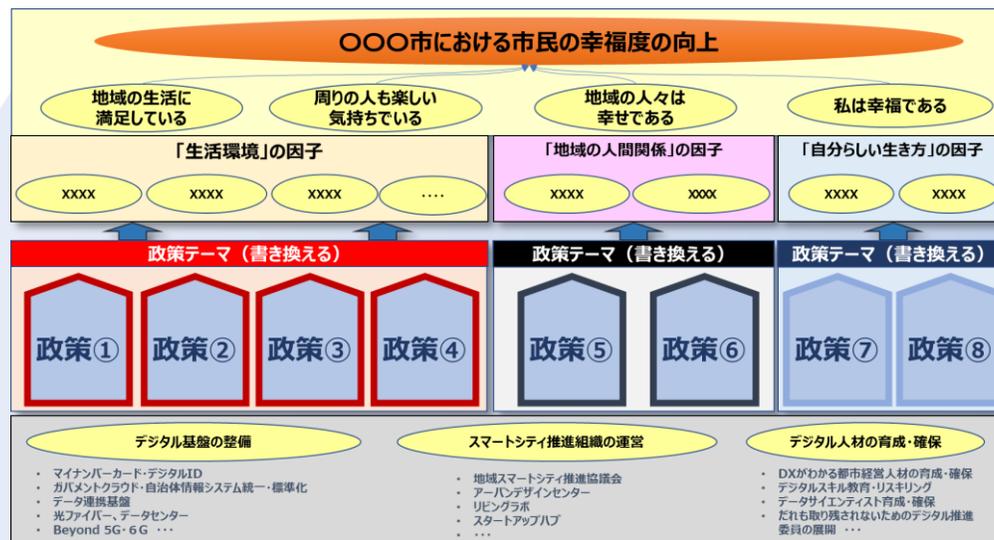
政策ゴール地点を決め、現在へバックキャストする

⑥ 政策ロジックモデル



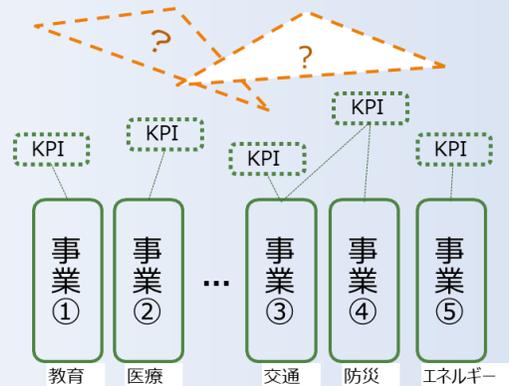
どのようにして政策目標を達成するかをデザインする

統合マップは、デジタル田園都市国家構想で描かれた「Well-Beingの向上」への政策・事業のアライメント（整合化）を実現する手段である



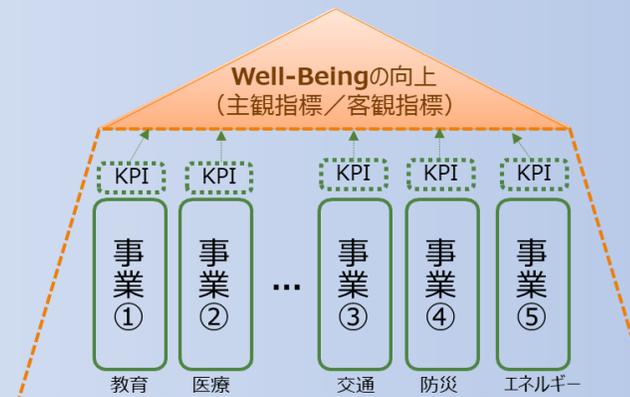
現状

- 複数事業を包括する街全体の目指す価値観の明示が不十分。それぞれの事業が目指すまちづくりの目的や取組もバラバラ。
- KPIの設定も事業毎に独自に設定されており、相互の連関性は低い。



今後

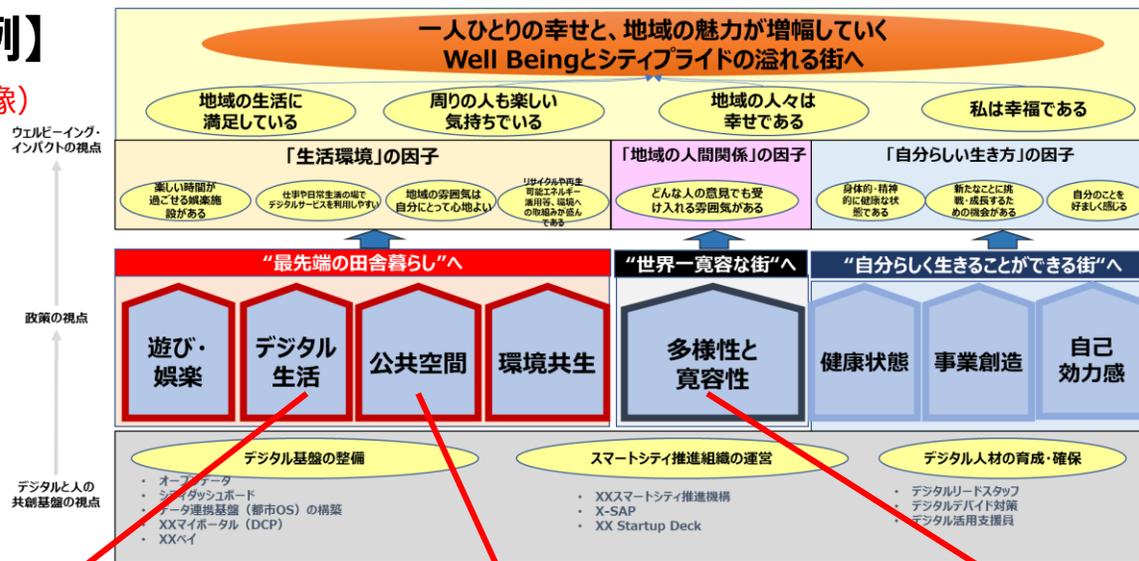
- Well-Being指標測定のための客観指標に必要なデータ及び主観指標に必要なアンケート調査などはデジタル庁で準備（独自の手法によるも対応可）。
- デジタル田園都市交付金Type2/3採択自治体中心に計測地域を徐々に拡大（任意）。



4~5人のチーム毎に統合マップとペルソナ・ロジックツリーを作成。ペルソナには、選択した政策領域で最も重要な（=インパクトの大きい）ものを抽出する

【統合マップの記載例】

(まちのウェルビーイング政策全体像)



主観的幸福度の指標群

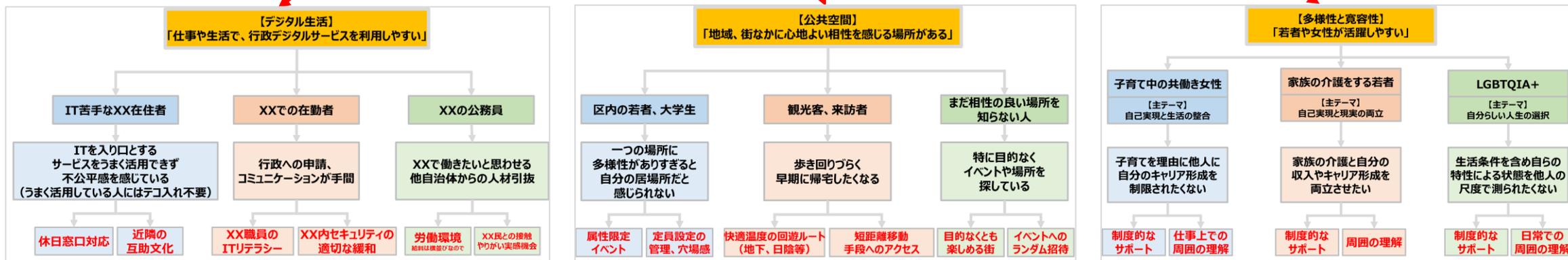
選択された政策の全体像

【ペルソナ・ロジックツリーの記載例】

(ウェルビーイング政策のセグメント別ブレイクダウン)

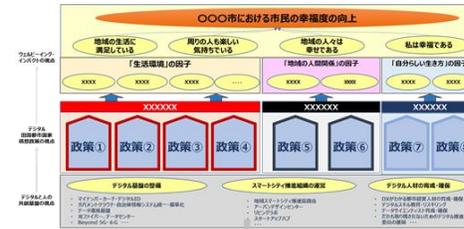
個別の選択領域

個別の選択領域



統合マップ ⇔ ペルソナ・ロジックツリー ⇔ 政策ロジックモデルの往復を通じて、全体観と個別政策のアライメントを高めていく

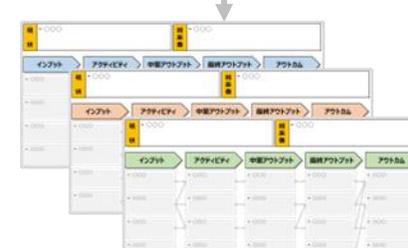
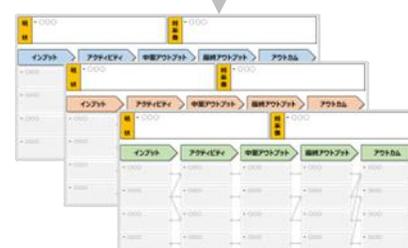
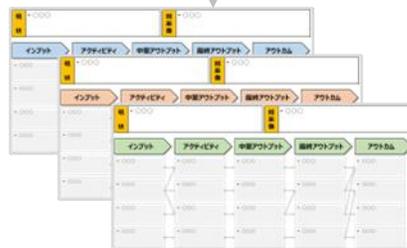
【統合マップ】



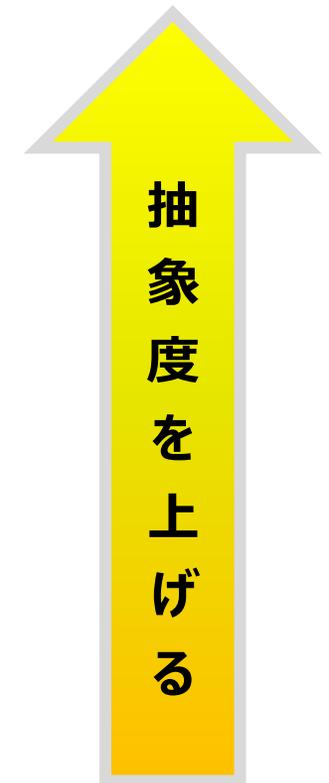
【ペルソナ・ロジックツリー】



【政策ロジックモデル】



メッセージ性を高める



解像度を上げる



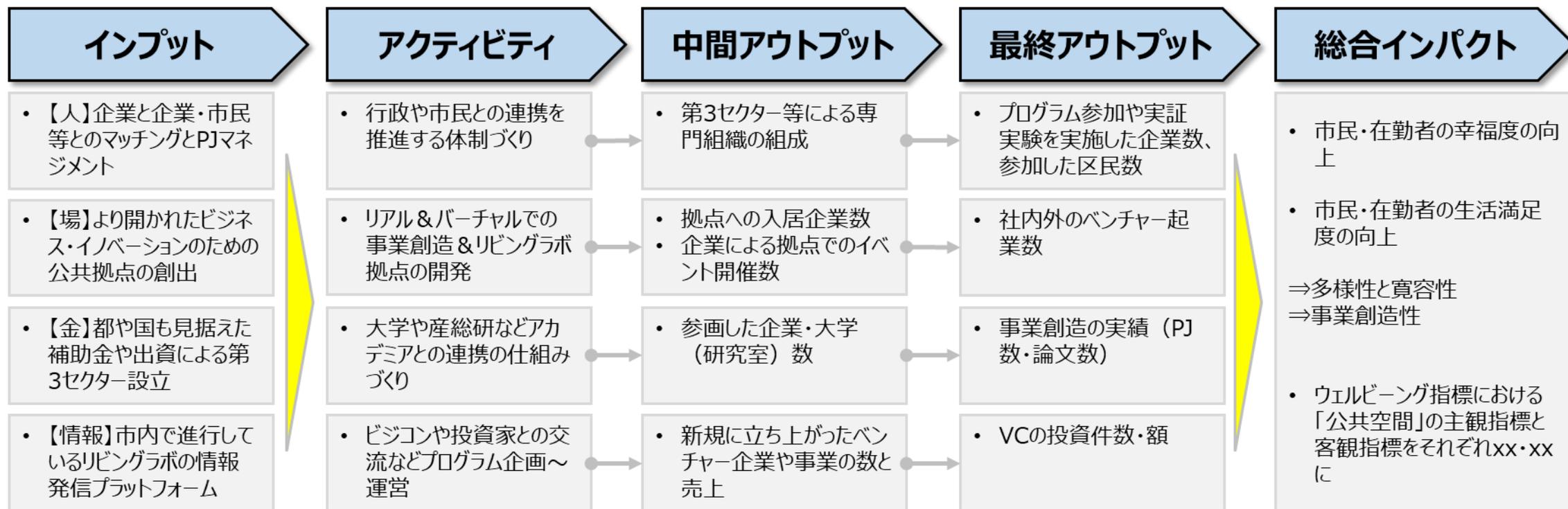
実効性を高める

ペルソナ・ロジックツリーで解像度を上げたウェルビーイング因子について、その向上・改善・維持等を目的とした**具体的な政策をデザイン**（政策ロジックモデル）

【政策ロジックモデルの実例（公共空間＋事業創造）】

- 先進ビジネスを牽引する多様な民間リソースを、市内の社会関係資本への投資と循環につなげるハード&ソフト・インフラとして整備し、市民&在学在勤者の幸福度向上を目指す

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンイノベーションが叫ばれるものの、実際にはそのような機会や場には縁遠い ・ 民間のイノベHUBは金銭面でもハードル高い 	将 来 像	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネス開発を協働できる企業や市民と、もっと気軽に出会いたい&試したい
----------------	---	----------------------	---

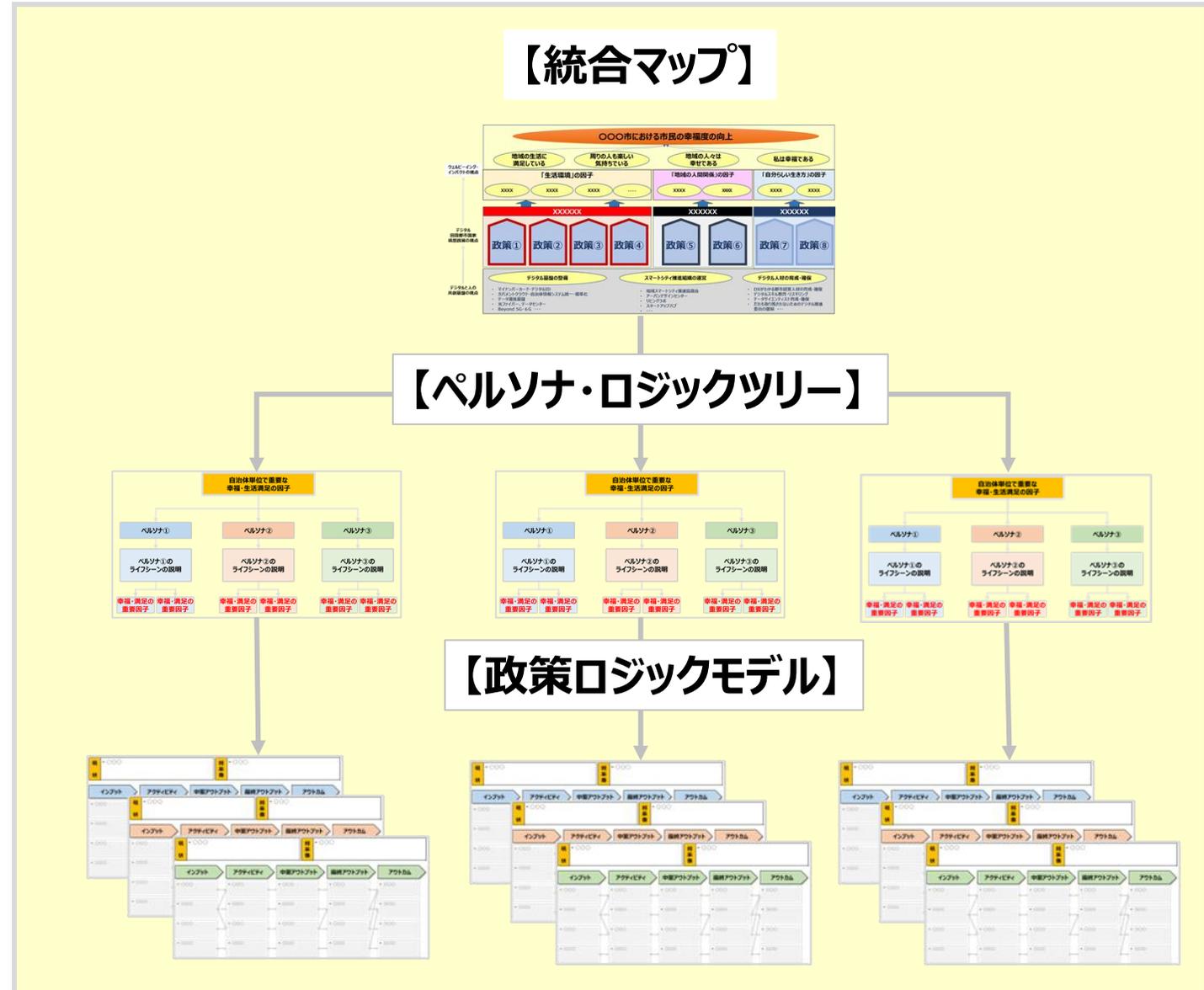


「統合マップ+ペルソナ・ロジックツリー+政策ロジックモデル」のセットで、地域幸福度指標モデルという、言わば「巨視的な政策ロジックモデル」を具体化していく

地域幸福度指標モデルの具体的な実装へ



地域幸福度指標モデル自体が、ロジックモデルの構造。これを自治体毎の具体的政策に落とし込むには、右記の3層構造が必要となる・・・



【第2のループ】 OASIS研修で得た内外先進事例の知識等に基づき、自治体固有のウェルビーイング指標システムとその実行プロセスをデザインする

自治体固有のウェルビーイング指標システムをデザインする

【記載例】

【属性データ】

- 性別
- 年齢層
- 居住地区
- 居住年数
- 家族構成
- 職業
- その他属性

X

【ウェルビーイングデータ】

- 主観データ
 - ・ ファーストレイヤー
 - ・ セカンドレイヤー
- 客観データ
 - ・ ファーストレイヤー
 - ・ セカンドレイヤー

X

【分析枠組み・指標】

- 階層型 + 並列型
 - ・ □ジックツリー
 - ・ 相関分析
 - ・ 回帰分析
 - ・ レーダーチャート
 - ・ □ジックモデル
 - ・ GIS …

⇒

【分析結果】

- 自治体全体
 - ・ 幸福度
 - ・ 生活満足度
- セグメント・ペルソナ別
 - ・ 幸福度
 - ・ 生活満足度

自治体固有のウェルビーイング指標システムの実行プロセスをデザインする

【記載例】

【市民参加】

- ワークショップ
 - ・ 官民ワークショップ
 - ・ 市民ワークショップ
 - ・ Decidim
- イベント
- ウェルビーイング・アワード
- 市民ウェルビーイング研究所

X

【人材育成】

- 庁内研修
 - ・ 幹部職員向け
 - ・ 中堅職員向け
- 市民向けセミナー
- 大学連携講座

X

【報告・モニタリング】

- 庁内スコアカード
- 市民向けダッシュボード
- 市民ウェルビーイング年次報告書
- 有識者会議

【第2のループ】 ペルソナ・ロジックツリーと政策ロジックモデルの作成を通じて 必要性を認識した自治体固有のアンケート質問項目と客観KPIを追加する

【セカンドレイヤー】

自治体の判断により、
独自に設定するアンケート
質問項目と客観KPI

自治体固有アンケート

追加の主観アンケート
(10~20問程度)

+

自治体固有KPI

追加の客観KPI
(10~20個程度)

【ファーストレイヤー】

SCIJ・デジタル庁が提供
する全国共通のアンケー
ト質問項目と客観KPI

地域幸福度指標

主観アンケート
(標準セット 50問)

+

地域幸福度指標

客観指標
(標準KPI 約200個)

追加する

追加する

【第2のループ】 セカンドレイヤーとして自治体が独自に設定する質問項目とKPI

【記載例】

【市独自の質問項目として追加すべきもの】

- 公共空間
 - 在勤者向け
 - ・ この街は働く環境として愛着があるか。
 - ・ この街は**仕事以外の生活環境として愛着があるか。**
 - ・ (買い物、医療、アフター 5 など仕事以外の生活)
 - ・ 働き続けたいか。他に働きたい地域があるか。
 - 在学者向け
 - ・ この街は学びの環境として愛着があるか。
 - ・ この街は生活(娯楽を含む)の環境として愛着があるか。
 - ・ この街は就職先として期待するか。
 - 在住者向け
 - ・ **在勤在学者、来街者がこの街の発展に貢献しているか。**
 - 来街者向け
 - ・ **自分の貢献でこの街を自分にとって魅力的な街としていきたいか、**他も含め魅力的な街があればそれを楽しみたいか。
 - デベロッパー向け
 - ・ この街をよいものにし、自社の開発プロジェクトを発展させていきたいか。
 - ・ 他デベロッパーとの連携を図っていきたいか。
- 環境共生
 - ・ 心地よく滞在できる場所がある
 - ・ 街が清潔だと感じる
 - ・ 再生エネルギーの利用や、ゴミの分別など、環境に良い活動が行えている

【市独自の客観指標として追加すべきもの】

- 公共空間
 - 人流
 - ・ 単位当たりの人数
 - ・ 移動経路
 - ・ 滞在時間
 - ・ **流入人口増減率(夜間人口・昼間人口)**
 - ・ **流出人口増減率(夜間人口・昼間人口)**
 - ・ 来街者増減率
 - ・ 関係人口訪問系増減率
 - 地域通貨利用増減率
 - デベロッパー間の連携密度
- 環境項目
 - ・ 昼間人口あたり年間CO2排出量
 - ・ 事業所・学校・住宅の再エネ利用率
 - ・ 事業所・学校・住宅のゴミ排出量
 - ・ 環境に関するイベント開催数

【OASIS研修最終日】 首長あてプレゼンテーションと修了認定証

- OASIS研修の最終日は、首長あてプレゼンテーション。
- 各チームから研修期間中に実施した各種分析結果と政策提言を15分程度で発表。
- OASIS修了者には、「**認定証**」を授与し、ウェルビーイング指標活用による政策デザイン習得の証としている。



浜松市での最終発表の様子（出典：浜松市ホームページ）

<認定証>



OASIS オンライン・コミュニティ（Slack） = 自治体横断的な「共助の場」

- OASIS研修の受講者は、全員Slack上のオンライン・コミュニティに参加。講師との連絡や宿題の提出は、オンラインで行う。
- 受講者からの提出物（宿題・最終発表資料）は、Slack上にライブラリー的に蓄積されており、受講者は、他の自治体・企業の受講者の資料を自由に閲覧することが可能。この空間を「**共助の場**」として位置づけ、**お互いに「良いところどり」をすることにより、自治体を跨ぐベストプラクティスを積み上げることを奨励している。**
- 具体的には、各自治体からの受講者が作成した以下の資料が日々、「**ノウハウ集**」として蓄積され続けている。

- ① 主観・客観マトリックス分析
- ② ウェルビーイング政策統合マップ
- ③ ペルソナ・ロジックツリー
- ④ 政策ロジックモデル
- ⑤ 主観・客観シナリオ分析
- ⑥ ウェルビーイング指標システム案
- ⑦ ウェルビーイング指標実行プロセス案

現状、約100事例が蓄積されている



OASISオンライン・コミュニティの様子（Slack）

典型的なOASIS導入・展開プロセス

【1年目】



【2年目】

この間に以下等を実施し、モメンタム確立を目指す事例が多い

- 官民スマートシティ推進協議会等でのウェルビーイング指標ワークショップ実施
- 市民向けウェルビーイング指標ワークショップの実施
- イベント、自治体広報（広報紙・SNS等）、メディア（新聞等）を通じた啓蒙
- ローカル・ウェルビーイング・アワードの設計・導入
- 次期総合計画策定に向けたウェルビーイング指標の活用方針検討・決定

OASIS分析ツール① 「主観×客観マトリックス」(散布図)

主観・客観 散布図

自治体

Search

- 11 埼玉県
- 12 千葉県
- 13 東京都
- 14 神奈川県
 - 神奈川県横浜市
 - 神奈川県川崎市
 - 神奈川県相模原市
 - 神奈川県横須賀市
 - 神奈川県平塚市
 - 神奈川県鎌倉市
 - 神奈川県藤沢市
 - 神奈川県茅ヶ崎市

回答者数

2,356

性別

1018 (43.2%)

1328 (56.4%)

性別

- 男性
- 女性
- その他

年代

80代以上 41

70代 331

60代 515

50代 710

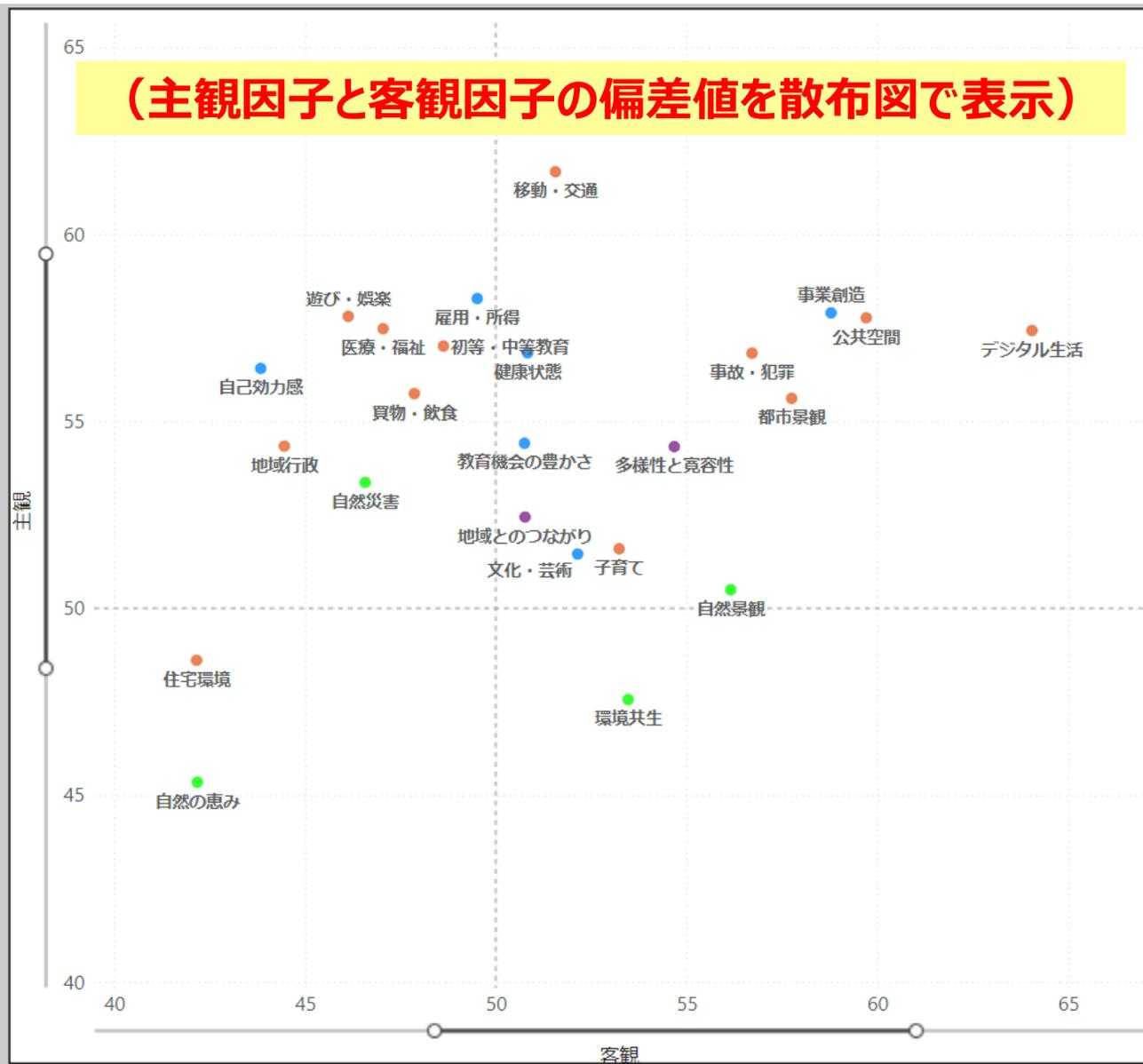
40代 471

30代 201

20代 79

10代 8

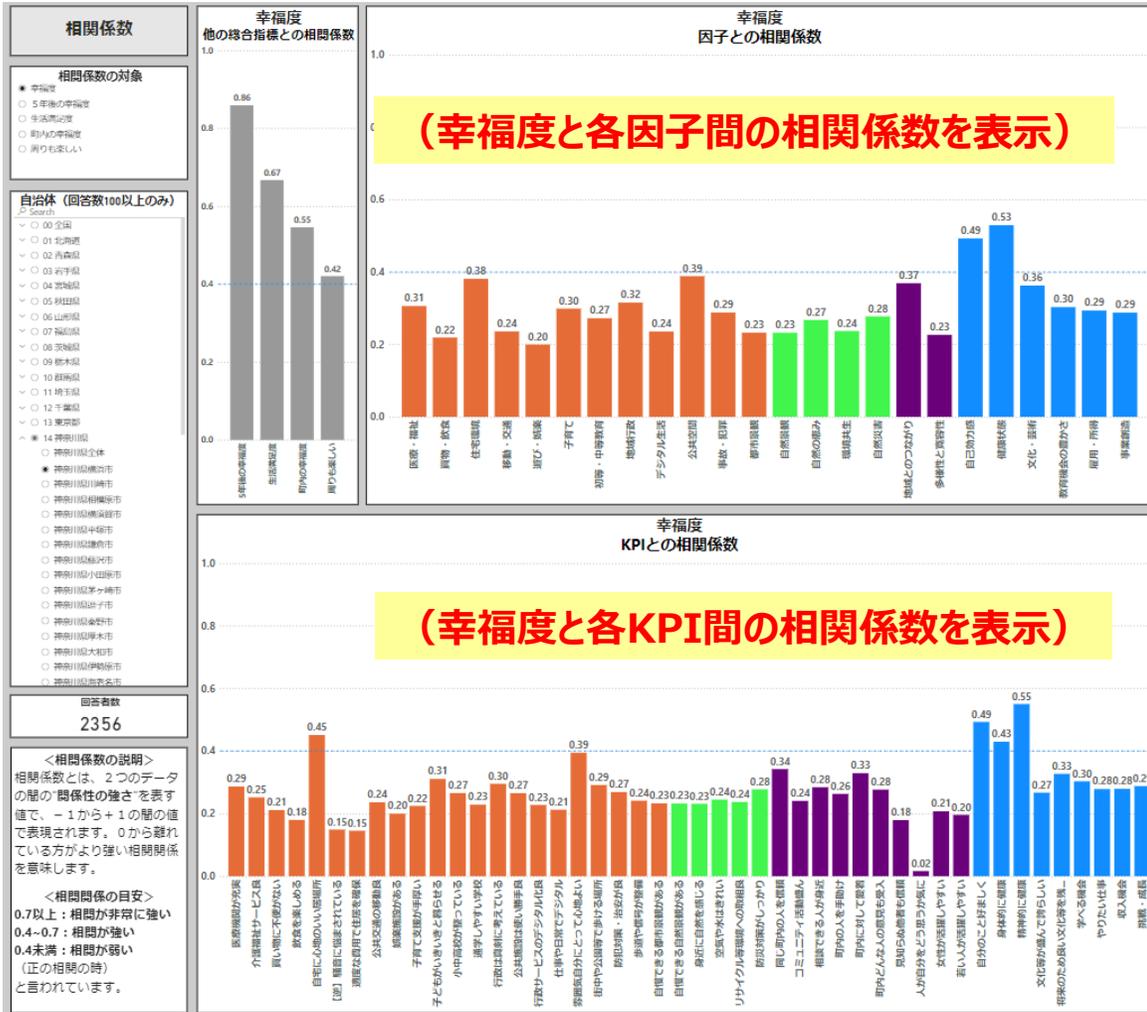
0 500



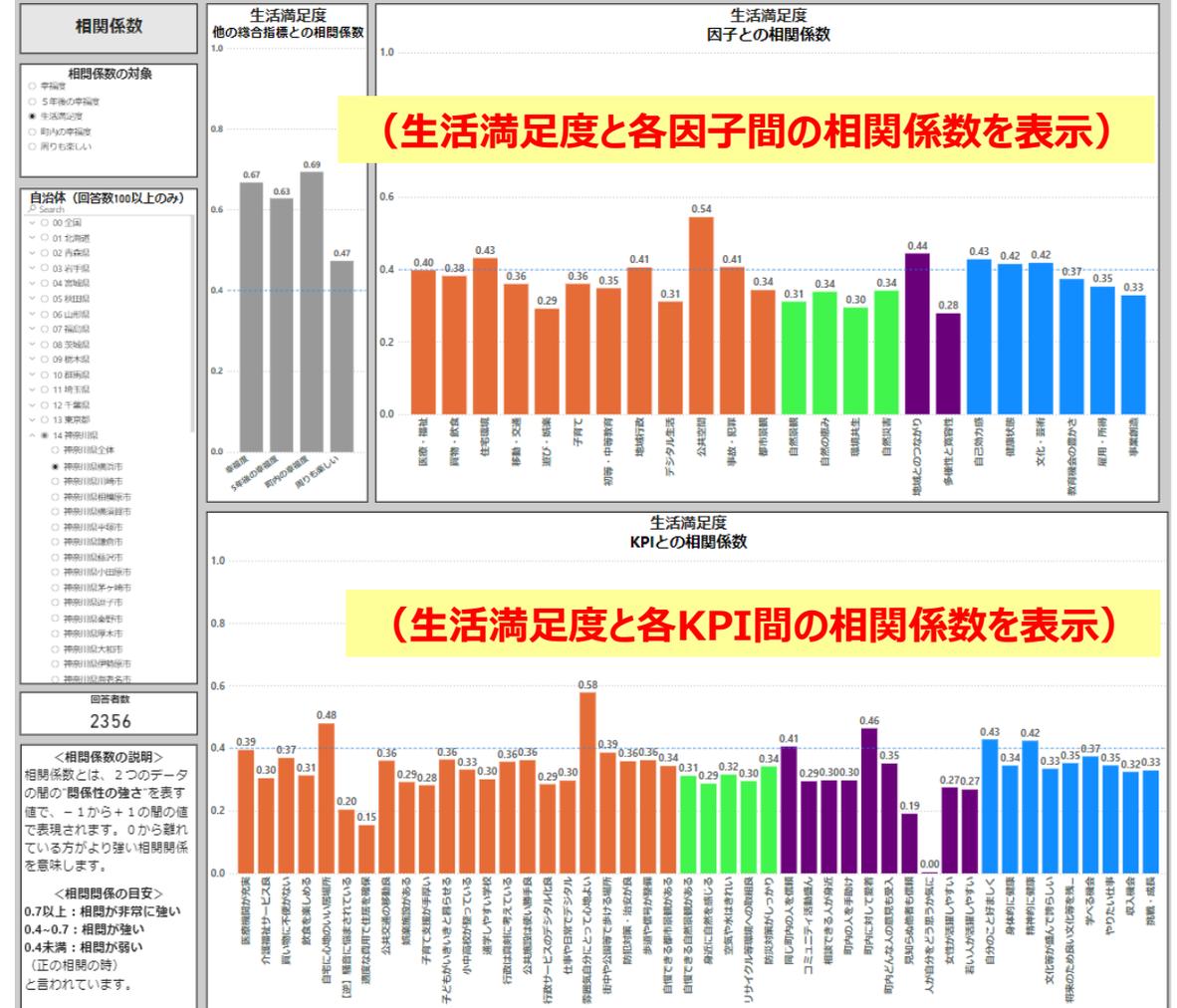
因子	主観	客観
医療・福祉	57.5	47.0
買物・飲食	55.7	47.9
住宅環境	48.6	42.2
移動・交通	61.7	51.6
遊び・娯楽	57.8	46.1
子育て	51.6	53.2
初等・中等教育	57.0	48.6
地域行政	54.3	44.5
デジタル生活	57.4	64.1
公共空間	57.8	59.7
事故・犯罪	56.8	56.7
都市景観	55.6	57.8
自然景観	50.5	56.2
自然の恵み	45.3	42.2
環境共生	47.6	53.5
自然災害	53.4	46.6
地域とのつながり	52.4	50.8
多様性と寛容性	54.3	54.7
自己効力感	56.4	43.8
健康状態	56.8	50.8
文化・芸術	51.5	52.1
教育機会の豊かさ	54.4	50.8
雇用・所得	58.3	49.5
事業創造	57.9	58.8

OASIS分析ツール② 「総合指標と各因子間の相関分析」

【幸福度との相関係数】

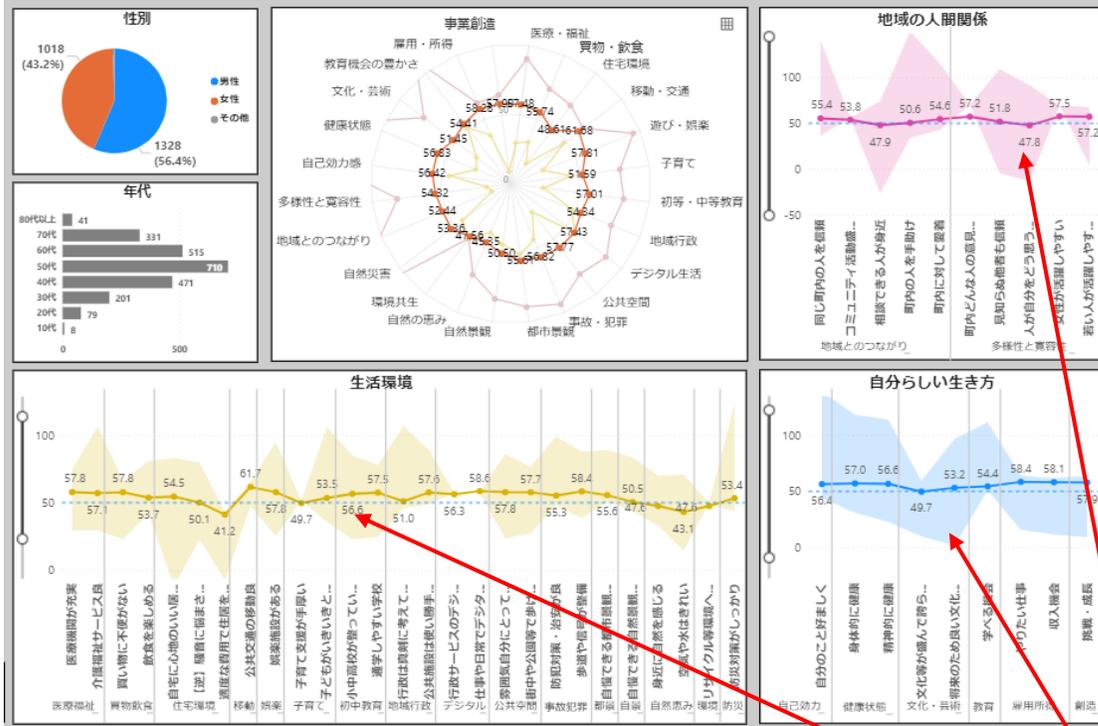


【生活満足度との相関係数】

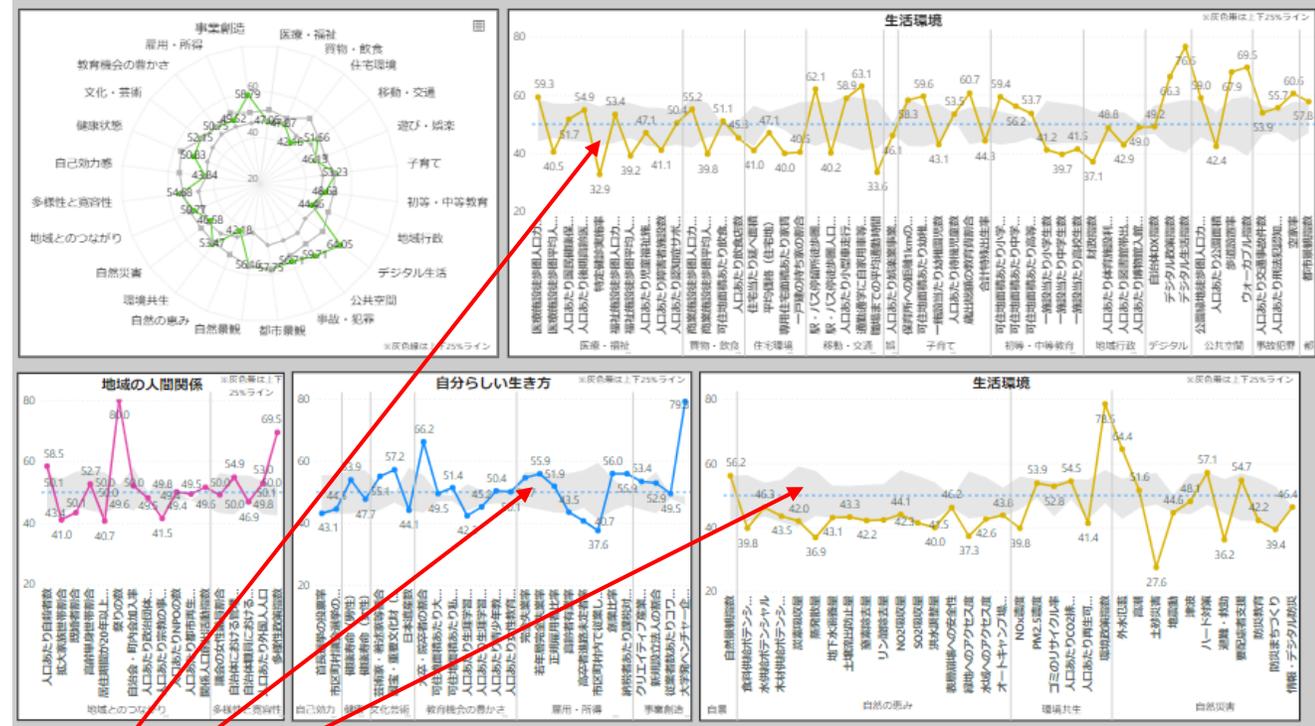


OASIS分析ツール③ 「主観・客観の因子/KPIレベルの分散」

【主観因子の分散】



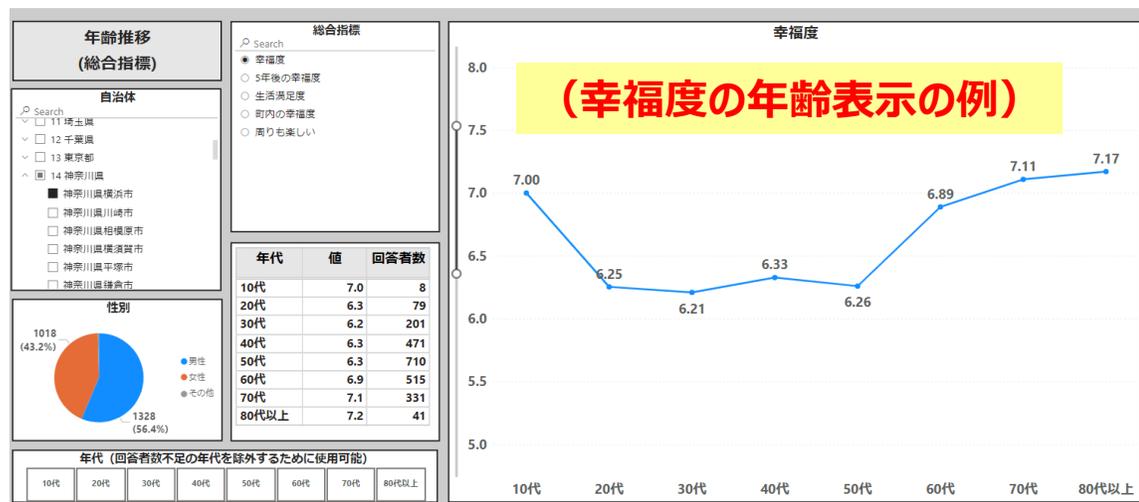
【客観因子の分散】



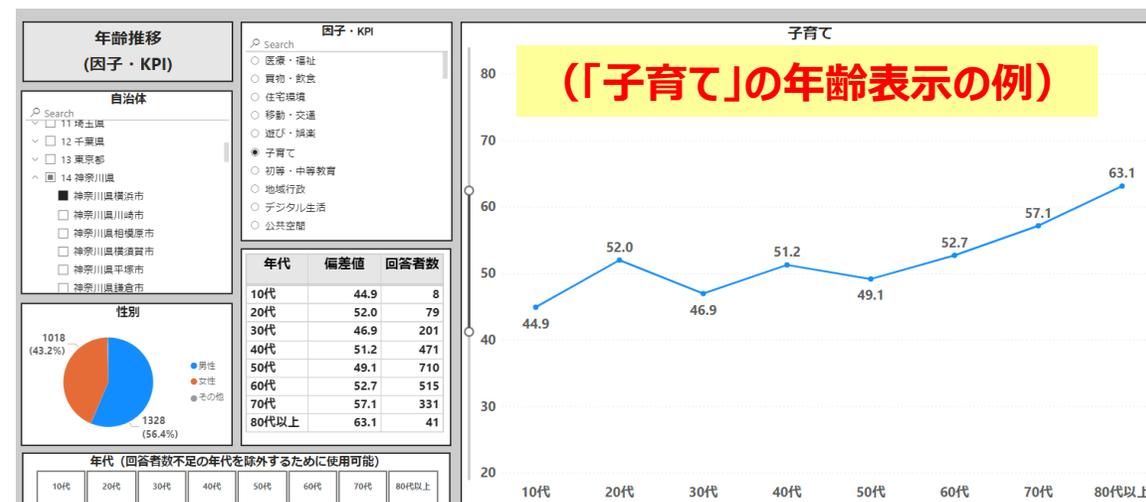
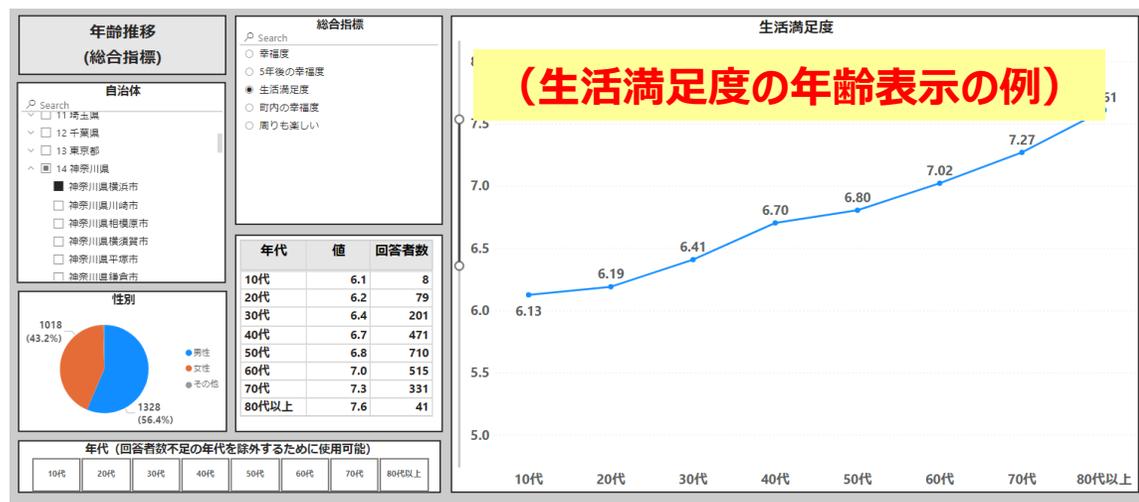
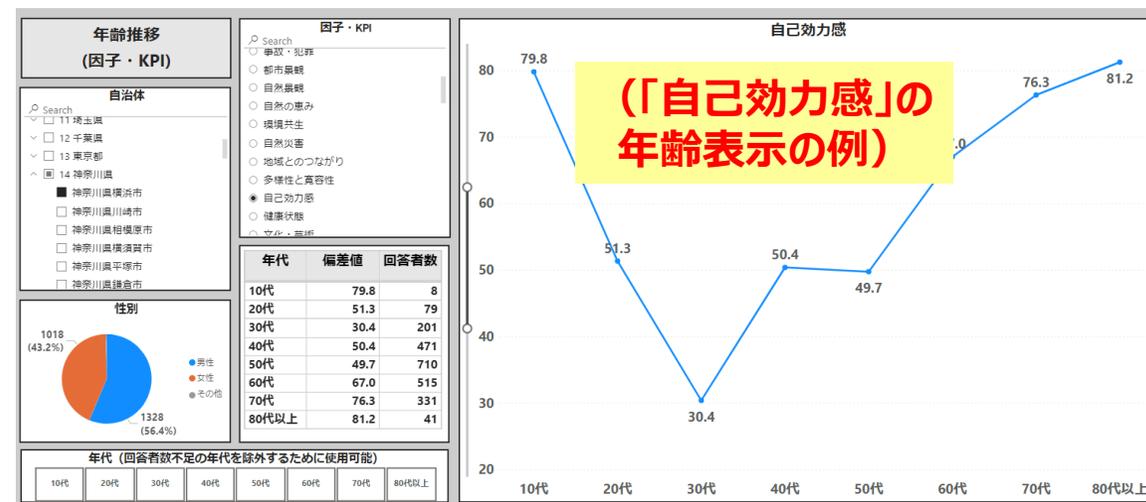
(各因子/KPIのスコア (偏差値) の周りに、分散状況 (上下25%パーセンタイル) を帯で表示)

OASIS分析ツール④ 「主観・客観の因子/KPIレベルの年齢推移」

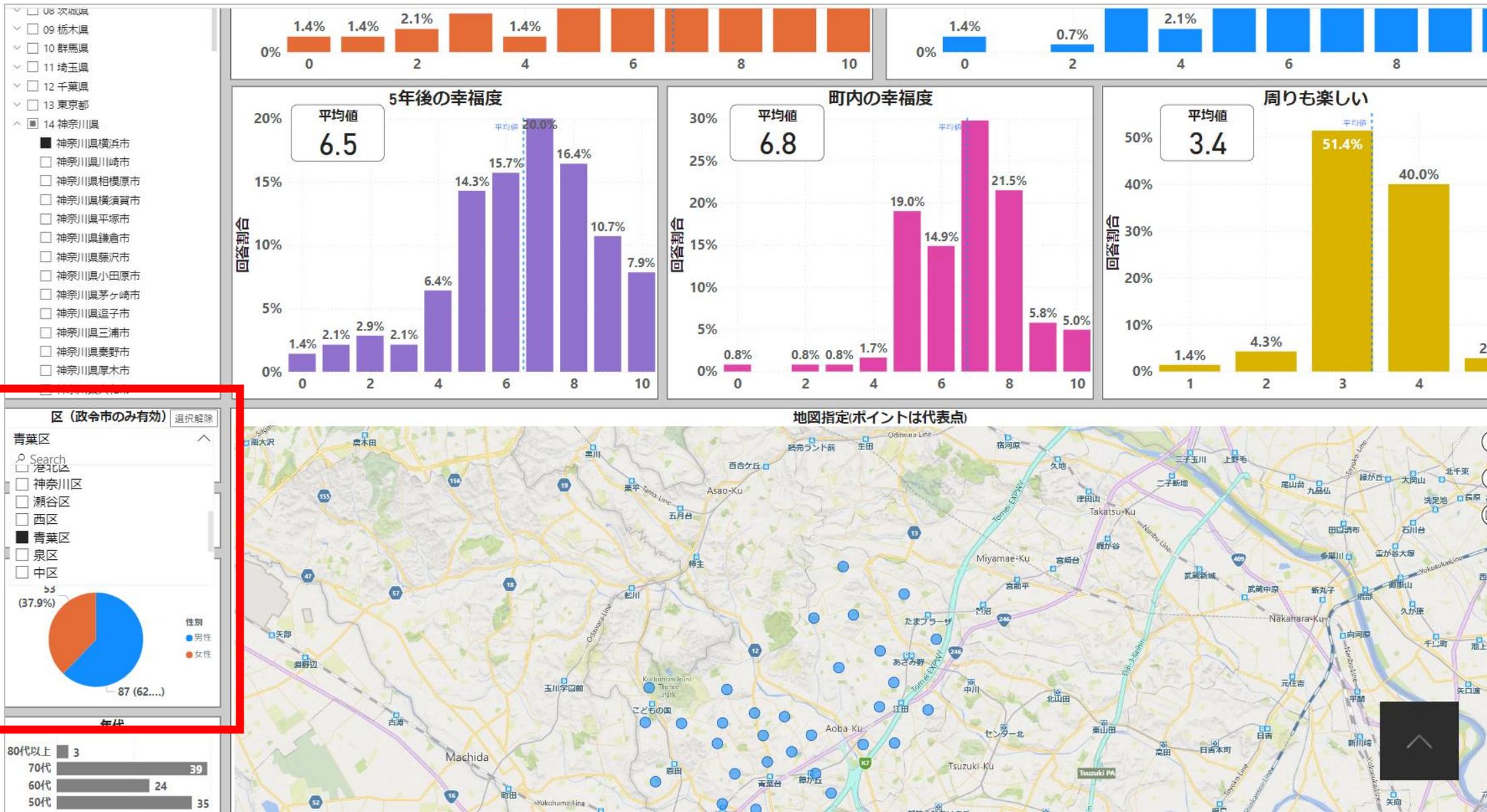
【総合指標の年齢推移】



【因子/KPIの年齢推移】

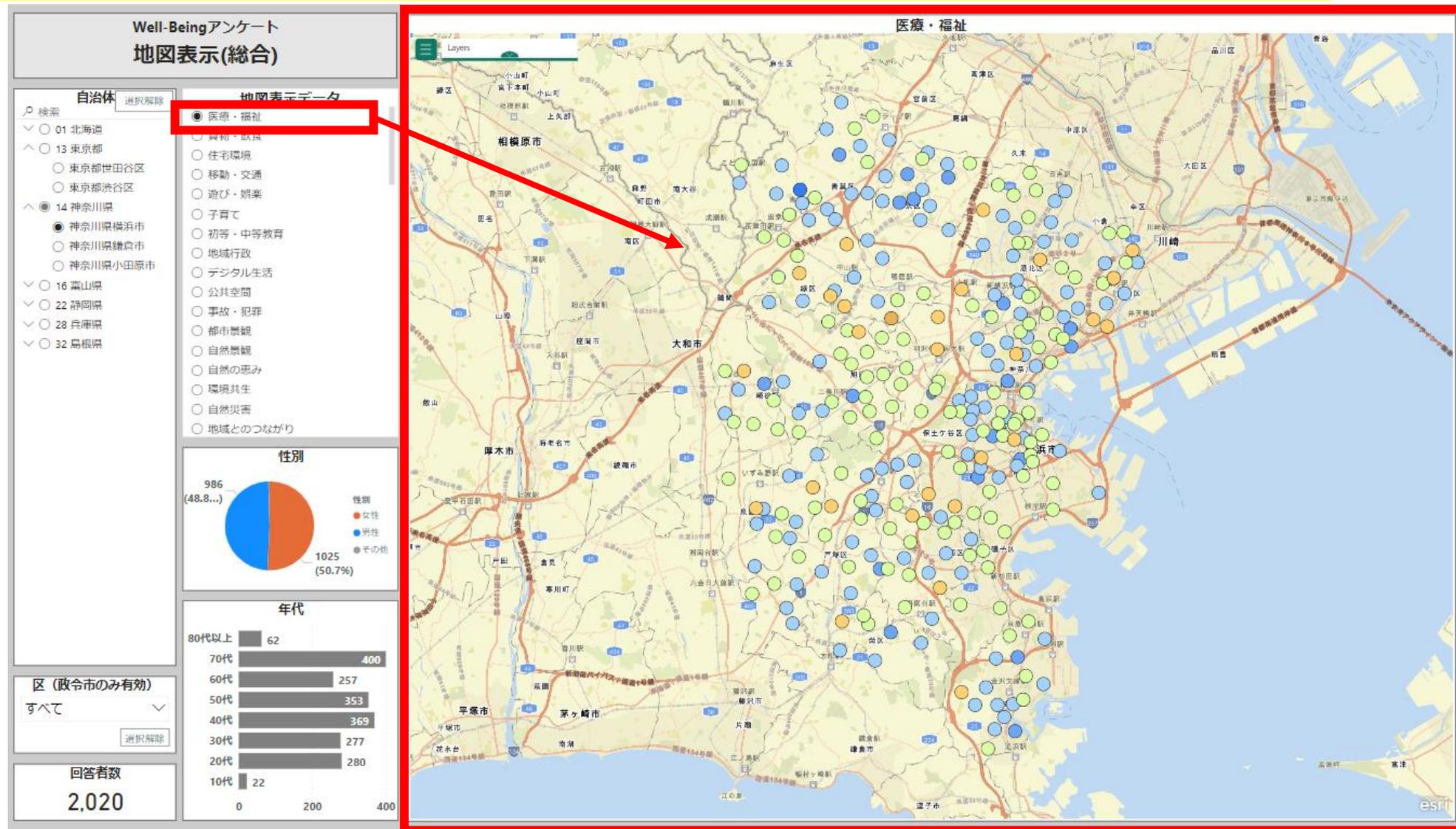


OASIS分析ツール⑤ 「政令指定都市の区レベルの表示」



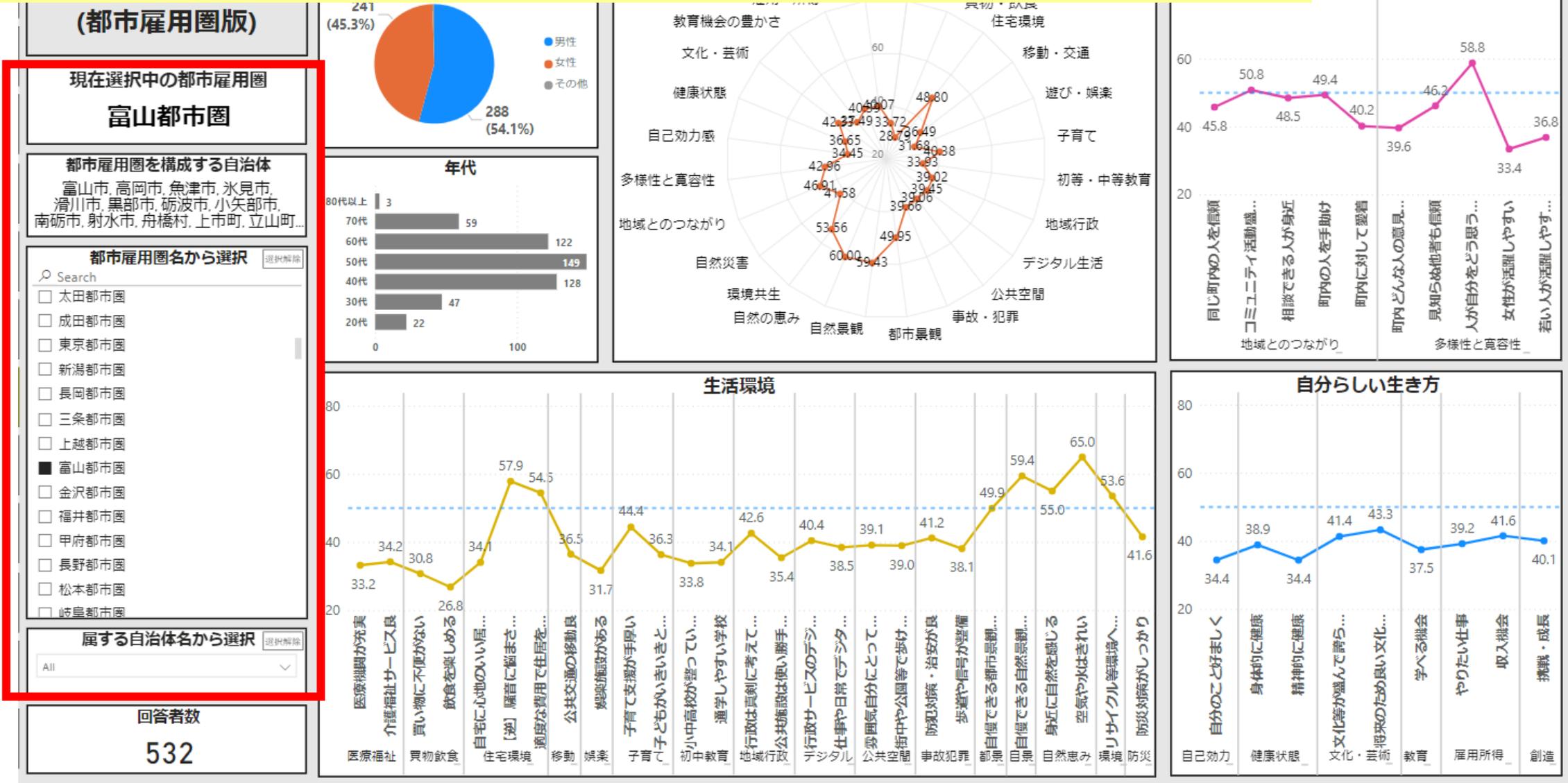
OASIS分析ツール⑥ 「因子レベルのスコアの地図表示」

(24因子それぞれについて、自治体内でどのようにスコアが異なるかを地図上で「可視化」)



OASIS分析ツール⑦ 「都市雇用圏ベースのウェルビーイング・ダッシュボード」

(民間企業向けに「市場」を意識して、都市雇用圏ベースでウェルビーイング指標を表示)

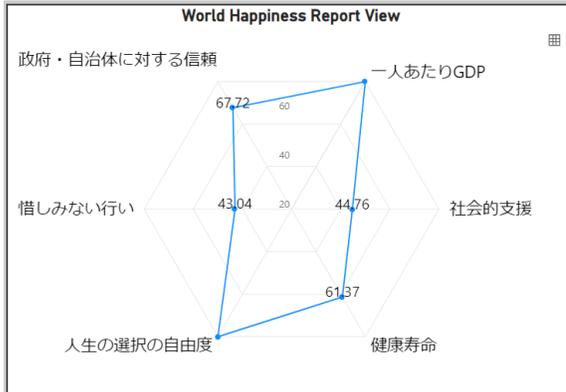


OASIS分析ツール⑧ 「各種国際指標モデルの比較」(ディスカッション用)

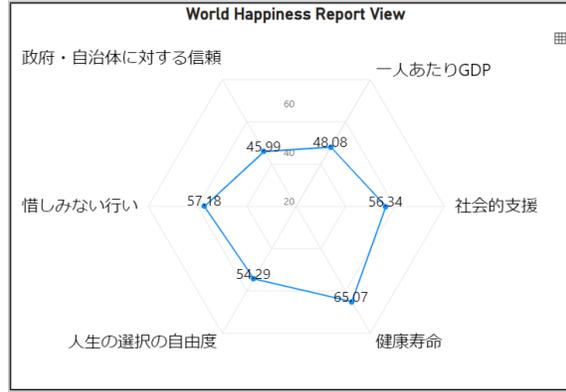
(注: 各Viewに使用したデータは、地域幸福度指標に既に使用されているデータから、最も主旨に沿うと思われるものを適用していますので、厳密な意味でオリジナルモデルの定義通りではありません。)

【世界幸福度調査View】

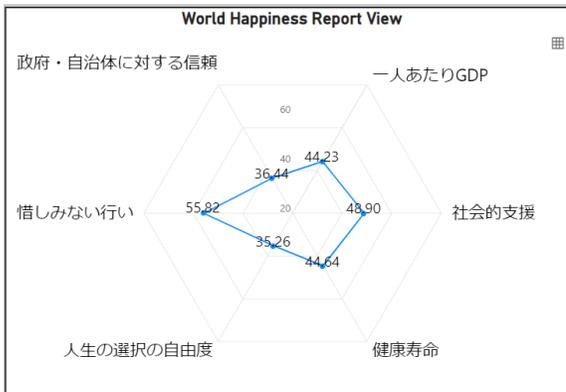
【渋谷区】



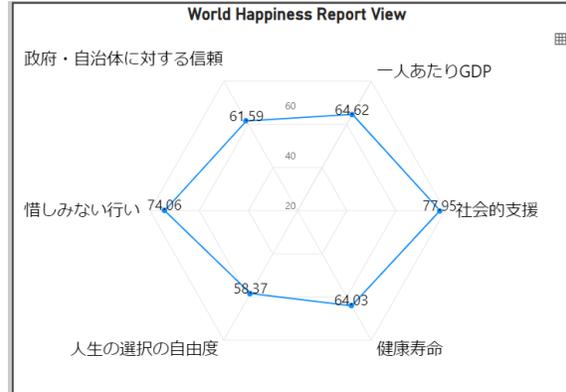
【浜松市】



【会津若松市】

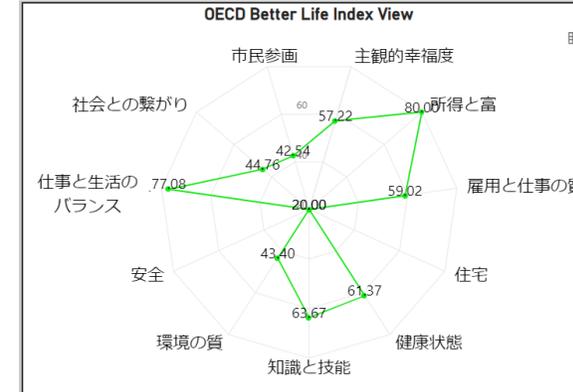


【鎌倉市】

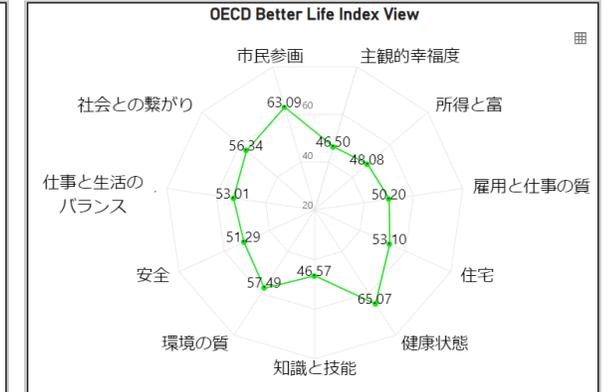


【OECD Better Life Index View】

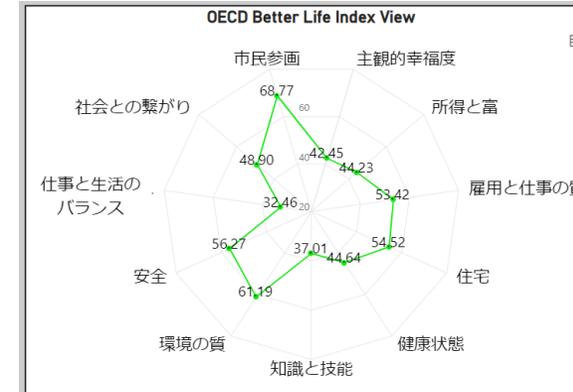
【渋谷区】



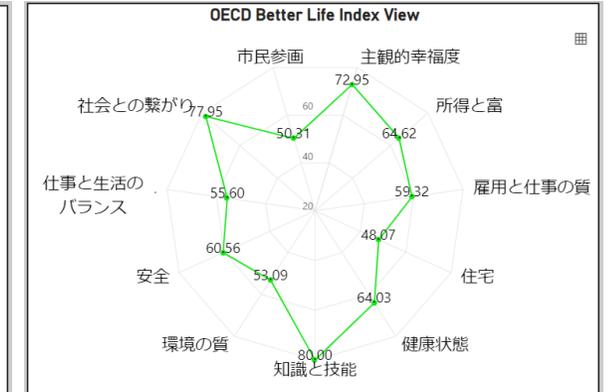
【浜松市】



【会津若松市】



【鎌倉市】



OASIS分析ツール⑨ 「各種国際指標モデルの比較」(ディスカッション用)

(注: 各Viewに使用したデータは、地域幸福度指標に既に使用されているデータから、最も主旨に沿うと思われるものを適用していますので、厳密な意味でオリジナルモデルの定義通りではありません。)

【WELLBY View】

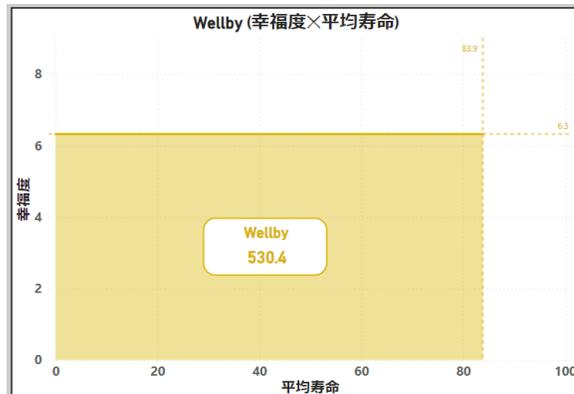
【渋谷区】



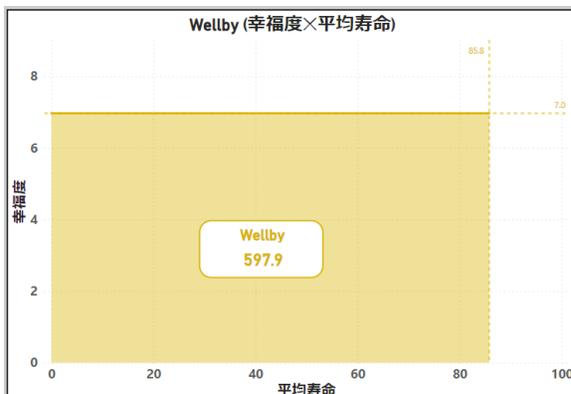
【浜松市】



【会津若松市】

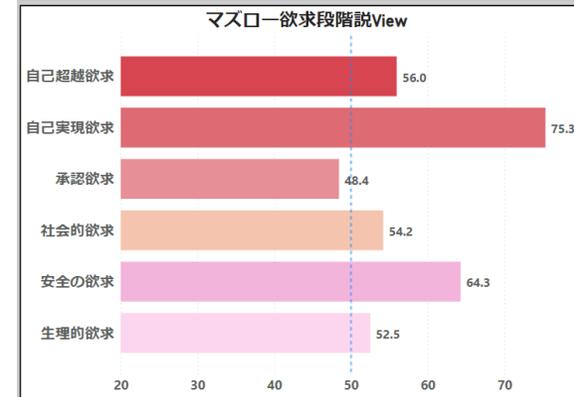


【鎌倉市】

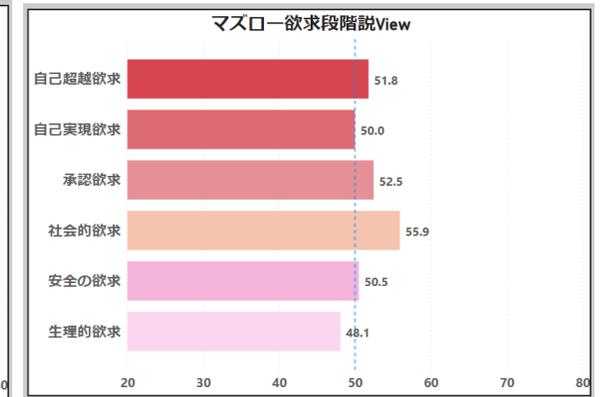


【マズローの段階欲求説View】

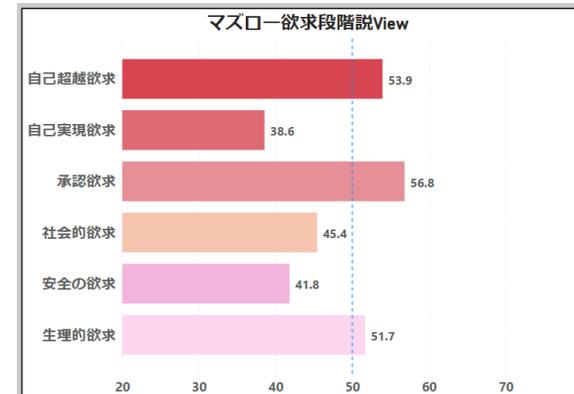
【渋谷区】



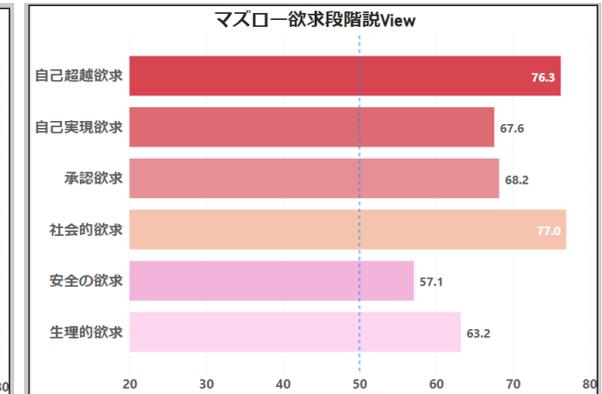
【浜松市】



【会津若松市】



【鎌倉市】



ローカル・ウェルビーイング・アワード ～ 地域幸福度（ウェルビーイング）指標を活用し、地域課題の解消や幸福度の向上に貢献した活動や提案を表彰

【浜松市】

令和5年7月7日

報道発表

浜松市デジタル・スマートシティ推進部
デジタル・スマートシティ推進課
TEL: 053-457-2454



「はままつ Well-Being アワード」の創設及び募集開始について

国が「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け、共助の取組による地域の豊かさや心豊かな暮らしの共通指標となる地域幸福度（Well-Being）指標の整備・活用を進める中、本市では市民の幸福度向上に向け、昨年度より Well-Being 指標を活用した官民連携によるまちづくりの推進に取り組んでいます。

この度、企業や団体の Well-Being に関する取組を促進し、市民の幸福度向上を図ることを目的として、企業や団体の取組を顕彰する「はままつ Well-Being アワード」を創設し、「はままつ Well-Being アワード2023」の募集を開始いたします。

記

■ はままつ Well-Being アワード2023について

(1) 募集期間

令和5年7月7日（金）から令和5年9月1日（金）まで

(2) 表彰の種類

① はままつ Well-Being デザイン賞

浜松市民の幸福度向上に良い影響をもたらすことが期待される取組やサービスのうち優れたもの

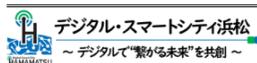
② はままつ Well-Being インパクト賞

浜松市民の幸福度がどの程度向上するか、地域幸福度(Well-Being)指標や企業・団体独自の指標（アンケート等）を用いて測定されており、地域（浜松市）の幸福度向上への波及効果が認められる取組やサービスのうち優れたもの

(3) 応募対象

① はままつ Well-Being デザイン賞

- 幸福度向上のストーリーが具体的に、対象・ターゲットの幸福度向上が見込まれる
- 対象・ターゲットの幸福度向上により、地域全体の幸福度向上への波及効果が見込まれる
- 取組やサービスの効果測定の方法や、効果的な PDCA サイクルを回していくための方針が整理されている



【小田原市】



おだわらデジコン城下町

～全国学生デジタルまちづくりコンテスト2023 in ODAWARA～

応募期間 2023. 6.9(金)～7.28(金)



審査員



表彰

最優秀賞 50万円
優秀賞 30万円
入賞 5万円

※入賞者には、賞金のほかアイデア実現のサポートを予定

【金沢工業大学・野々市市】

第1回

Well-being & Sustainable City
アイデアコンテスト

テーマ

2030年の野々市市の理想像実現に向けたアクション
～ウェルビーイングとサステナビリティの両立に向けて～

野々市市の2030年の未来に向け、斬新でわくわくするアイデアを募集します！

応募資格：金沢工業大学の学生（大学院生含む）
応募する際のグループの構成人数：1～6人

賞について（各賞1組の選出、重複受賞あり）

SCI-J南雲岳彦 ウェルビーイング特別賞 副賞：10万円※	野々市 市長賞 副賞：5万円※	コマニー賞 副賞：5万円※	SDGs推進センター 所長賞 副賞：5万円※
--------------------------------------	-----------------------	------------------	------------------------------

※副賞は、クオカードもしくは図書カードでの授与となる予定

スケジュールについて



応募について

提出資料（野々市市の2030年の理想の未来と、それを実現するために必要な課題解決手法の提案）
① PDFファイル1GBまで（パワーポイント資料をPDF変換にて提出）※ページ制限なし
② 7分以内のプレゼン動画（YouTubeにアップした限定公開のURLを提出する）

必須項目

- 2030年に実現したい野々市市における生活シーン
- ①を実現するために解決すべき課題
- ②の根拠となるLWC指標を用いたデータ分析結果
(LWC指標とは？：客観指標と主観指標のデータバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」に「幸福度（Well-being）」を指標で数値化・可視化したものです）
- 課題解決の手法（自分たちが取り組む課題解決の手法）
- 自分たちの課題解決手法が有効であることの根拠を示すデータ
- 自分たちの取り組みを市に拡大するときのシナリオ

応募方法

二次元コードまたはURLから必要事項を記載の上、お申込みください
<https://forms.gle/DxTkcGvdC1cqb7E16>
※Googleアカウントでのログインが必要です

審査基準

バックキャストिंग	自分事	誰ひとり取り残さない	巻き込む力	実現性	地球規模
現在の延長上ではない未来が描かれているか？	机上の空論ではなく、自分の経験や身近な人の体験を基に語られているか？	誰一人取り残さないという観点がないか？	ワクワクするか？	技術の発展などを前提としたときに現実になりうる話か？	身の回りのことだけでなく、地球規模の視点、他地域でも共通する要素が含まれているか？

応募フォーム



ゲーミフィケーションを通じたウェルビーイング指標活用教育（金沢工業大学）

「コレクティブ・インパクトゲームは、日本政府が推進するデジタル田園都市国家構想で活用されているLWC指標（Liveable Well-being City Indicator）※の活用を促すために金沢工業大学SDGs推進センターが作成したカードゲームです。LWC指標を用いて特定した街の特徴（強みや弱み）を活かして、企業・自治体・市民・教育機関が連携し、ウェルビーイングな街の実現を目指します。ゲームの体験を通じて、多様なステークホルダーがお互いの立場を理解しながらwin-win-winの状況を実現するために重要なポイントを学ぶことができます。」（金沢工業大学プレスリリースより引用）



デジタル田園都市国家構想推進に向け、
LWC指標活用を促すゲーム
「コレクティブ・インパクトゲーム」
体験会

自治体の職員向け研修や企業向け研修で
大人気のゲームを無料で体験できる
貴重な機会です！！
是非ご参加ください！

2023年12月14日（木）
13時30分～15時30分（13時00分 受付開始）
開催場所 **金沢工業大学 大学院虎ノ門キャンパス13階**
東京都港区愛宕1-3-4 愛宕東洋ビル



先行事例の共有 ～ 2023年7月26日開催／SCI-Japan特別フォーラム 「市民のWell-Beingを高める日本型スマートシティへのチャレンジ～デジタル田園都市国家構想の実現に向けて～」

日経チャンネルでアーカイブ動画配信中 ▶

スマートシティ・インスティテュート (SCI-Japan) 主催／日本経済新聞社共催

市民のWell-Beingを高める日本型スマートシティへのチャレンジ ～デジタル田園都市国家構想の実現に向けて～

【基調パネルディスカッション】登壇者

【特別対談】登壇者

【自治体パネル】Well-Being 指標を活用した政策デザイン／事例紹介 登壇者



前野 隆司氏
慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント
研究科 教授



内田 由紀子氏
京都大学
人と社会の未来研究院長 教授



南雲 岳彦氏
SCI-Japan 専務理事



村上 敬亮氏
デジタル庁 統括官
国民向けサービスグループ長



西山 猛氏
北海道 更別村長



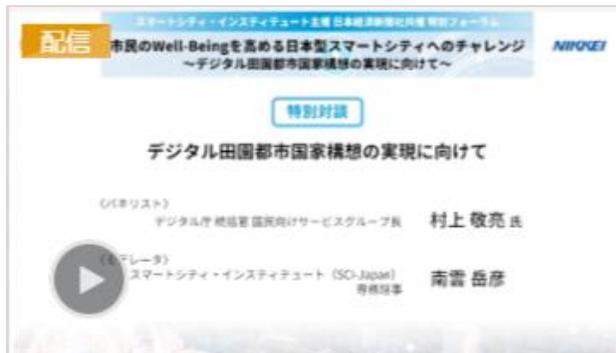
山本 雅則氏
岡山県 吉備中央町長



山本 龍氏
群馬県 前橋市長



岡田 康裕氏
兵庫県 加古川市長



■ 日経チャンネルでアーカイブ動画配信中 : <https://channel.nikkei.co.jp/2307sci-japan/>

先行事例の共有 ～ 2023年7月26日開催／SCI-Japan特別フォーラム 「市民のWell-Beingを高める日本型スマートシティへのチャレンジ～デジタル田園都市国家構想の実現に向けて～」

地域・都市経営人材育成を

主編 | スマートシティ・インスティテュートSCI-Japan
共編 | 日本経済新聞社
発刊 | 内閣府、デジタル庁、経済産業省、国土交通省、国土政策局

リカレント教育の活用が鍵

SCJ-Japanのデジタルリカレント教育プラットフォーム「リカレント」は、地域・都市経営人材育成に活用されています。

出口 敦氏 (SCJ-Japan 代表取締役社長)
藤原 晋也氏 (SCJ-Japan 代表取締役副社長)

高岡 典夫氏 (SCJ-Japan 代表取締役)
依谷 義子氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

岡田 孝樹氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

本フォーラムのアーカイブ情報はこちらから
<https://channel.rnkbc.co.jp/2007/scj-japan/>

SCJ-Japanについてはこちらから
<https://scj-japan.or.jp/>

地域幸福度高めるスマートシティ

市民の意識を可視化

デジタル田園都市国家構想の実現に向けて、市民の意識を可視化し、地域幸福度を高めるスマートシティの実現を目指しています。

山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)
岡田 孝樹氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)
山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)
山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)
山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

ウェルビーイング指標の活用進む

日本人の特質明らかに

ウェルビーイング指標の活用が進み、日本人の特質が明らかにされています。

村上 敬典氏 (SCJ-Japan 代表取締役)
村上 敬典氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

村上 敬典氏 (SCJ-Japan 代表取締役)
村上 敬典氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

村上 敬典氏 (SCJ-Japan 代表取締役)
村上 敬典氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

Smart City Institute Japan SCI-Japan特別フォーラム

市民のWell-Beingを高める日本型スマートシティへのチャレンジ ～デジタル田園都市国家構想の実現に向けて～

盛況御礼

SCJ-Japanは、デジタル田園都市国家構想の実現に向けた推進役として、国内外に向けた情報発信強化に向け、日本経済新聞社の共催のもと、7月26日(水)に「市民のWell-Beingを高める日本型スマートシティへのチャレンジ」をテーマに特別フォーラムを開催しました。ご登壇いただきました自治体首長の皆様をはじめ、講師の皆様、協賛企業の皆様、ご参加いただきました皆様へ厚く御礼申し上げます。

フォーラムの模様を毎日チャンネルでアーカイブ配信中

SCJ-Japanは、2023年11月にスペイン・パルマデマヨルカで開催される世界最大級のスマートシティイベント「Smart City Expo World Congress」において「日本型スマートシティ」をテーマに、並行して視察研修プログラムを実施します。ご関心のある方は、下記ページをご覧ください。

本フォーラムのアーカイブ情報はこちらから
<https://channel.rnkbc.co.jp/2007/scj-japan/>

SCJ-Japanについてはこちらから
<https://scj-japan.or.jp/>

基礎整備を進め サービス実装

基礎整備を進め、サービス実装を進めています。

山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)
山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)
山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)
山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

世界トップ水準を誇る自治体の機会

人呼び込み、流れつくる

世界トップ水準を誇る自治体の機会を捉え、人呼び込み、流れをつくることを目指しています。

山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)
山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)
山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)
山本 龍氏 (SCJ-Japan 代表取締役)

1. 自治体におけるウェルビーイングに基づく政策デザイン能力の継続的な獲得

- OASIS修了者の講師化によるノウハウ展開の加速
⇒ 地域情報化アドバイザー、オープンデータ伝道師のような支援制度化
- 自治体固有のアンケート項目・KPIや政策デザイン手法の開発促進
⇒ 指標・手法の「セカンドレイヤー」充実による自治体横断的な「共助」促進

2. 民間企業・スタートアップによるウェルビーイング指標活用の促進

- 民間企業向けOASIS研修の導入を通じた産官連携の加速
- 地域幸福度指標への民間拠出データの増加（現状、2社のみ）

本資料のご活用に向けて

- 本資料は、信頼できると思われる各種公開情報・オープンデータ等に基づいて作成されていますが、当法人はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に基づくご利用者様の決定、行為、及びその結果について、当法人は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、ご利用者様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュートと明記してください。